

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。

**養育家庭(ほっとファミリー)
体験発表集
(平成30年度)**



 **東京都福祉保健局 少子社会対策部**

「養育家庭(里親)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由により親元で暮らすことのできない子供が約4,000人います。そのような子供を、自らの家庭に迎え入れ、家庭的な環境で育てているのが「里親」であり、東京都ではその制度の普及に取り組んでいます。「養育家庭(里親)」は里親制度の一つであり、養子縁組を目的とせず、一定期間子供を育てる家庭です。

毎年、東京都は各区市町村と協力し、都内各地で養育家庭(里親)体験発表会を開催しています。この冊子は、平成30年度に開催された体験発表会において、養育家庭(里親)の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

養育家庭(里親)になろうと思ったきっかけ、元里子の委託されていた時の思い、交流中の思いがけない出来事や慌ただしい日々の様子などが描かれています。

また、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題や実子と里子の関係、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういった御苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭(里親)をやっていて良かったという話や、悩んだ時に養育家庭(里親)仲間や児童相談所の職員など周りの人から支えてもらった話など、養育家庭(里親)だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただき、都内における養育家庭(里親)に対する理解を深めていただく契機になれば幸いです。

令和元年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

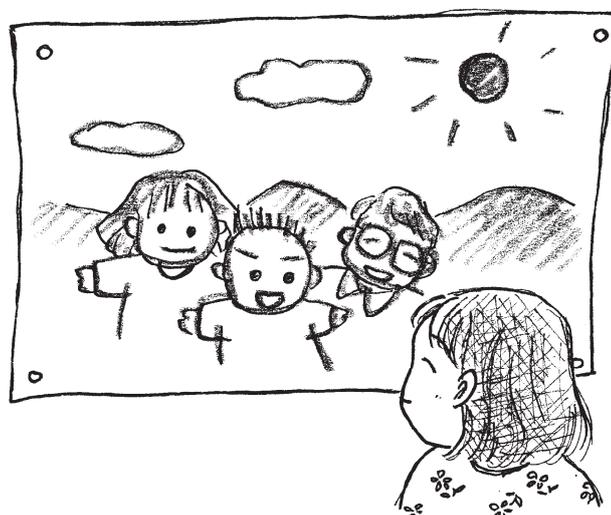
玉岡 雄太

目 次

1	我が家の3兄弟 ～次男の自立編を中心に～	2
2	M君との日々 ～僕のおうち～	4
3	私と里親	6
4	思いつきり甘えられる環境	8
5	我が家の可愛いアンパンタロウ	10
6	短期でも大変。でもその何十倍もの幸せが。	12
7	実子と里子と働く母と	14
8	里子生活を振り返って	16
9	ほっこりほこほこの毎日を	18
10	児童の命の受け皿になるということ	20
11	社会的養護経験者としての自分	22
12	出会えてよかった	24
13	一時保護委託と長期委託	26
14	「普通」の生活で取り戻した自信と笑顔	28
15	家に帰ると用意されているチーズケーキ	30
16	太陽のように明るい、いとおしい存在	32
17	支えを必要としている子供とともに生きる	34
18	短い期間でも、ここはキミの居場所だよ ～ドアプレートにかけた願い～	36
19	里親としてのやりがいと喜び	38

養育家庭(ほっとファミリー)

体験発表会に、ようこそ!!



この体験発表集には、19組のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1 我が家の3兄弟 ～次男の自立編を中心に～

【里母】

我が家は2001年3月、養育家庭の登録をしました。当時、主人と私、小学校1年生の長男、私の両親の5人家族でしたが、長男の弟が欲しいという言葉がきっかけで里親になりました。その後、2歳前の男の子を紹介され、「里親生活」が始まりました。私は次男だと思っているのですけれども、見知らぬ家で見知らぬ家族との暮らしが次男にとってどんなものだったのか考えてあげる余裕もありませんでした。でもすぐに家族の一員となり、全身で家族に甘え、病気もせずに成長してくれました。

次男が小学3年生になった頃、もう一人我が家に家族を迎えることになりました。きっかけは、次男が近所の赤ちゃんを見て可愛いと言えるようになったことです。それまではベビーカーに乗っている赤ちゃんを見て「可愛いね」と言うと、「いや、自分の方が可愛い」と言うような子供でした。成長した証だと思い、児童相談所をお願いして、次男の子を迎えることになりました。この時長男は、単純にもう一人弟が増える感覚で「弟が増えるのか」と言いました。血の繋がりが無い兄弟でも普通に家族としてやっていけることを長男が示してくれたので、安心することができました。

このように我が家は10年かけて5人家族が7人家族になりました。その間に短期で預かった子供や一時保護での子供もいたので、最大8人家族の時もありました。家族が増えるのは楽しいのですが、一人でも減ると立ち直るのに時間がかかることもあります。親御さんのところに戻った子供に関しては全然心配ありません。しかし色々な事情で他の施設や保護所に戻った子供の時にはちょっとナーバスになってしまい、立ち直るのに時間がかかってしまいました。楽になるのは、洗濯物が少なくなるくらいです。食事は増減があると分量の加減に慣れる時間が必要になります。

次男の満年齢解除は一言で言うと大変でした。次男は大学進学を希望していました。本人の学力だけでなく数多くの問題があることを初めて知りました。第一に資金です。里子である次男には学資保険をかけることができません。頭に浮かんだのは奨学金です。しかし一番大変だったのは、受験生活を送りながら奨学金を申し込むための作文を書くことでした。次男は作文が苦手ではなかったと思うのですが、不機嫌になる時期もありました。自分の幼い頃からの状況を思い出して書くことは、次男にとってプレッシャーになっていたのだと思います。

他にも次男は実名、生まれた時の戸籍名がもちろんあったのですが、受託当初から通称名を使っていました。そのうち里子だと知り、実名を分かってからも何の問題もなく過ごしてきたのですが、受験では実名を書かなければなりません。実名をほとんど書いたことがないので、試験の日に「頑張ってるね」と言う前に、「名前をちゃんと書いてね」と送り出していました。実名を名乗ってこなかったことについて今は私も失敗だったかなと思っています。本人に実名と通称名との違い、今まで16年間全然考えてこなかった

ことを考えさせてしまうことになりました。それは、自分の生まれ持ったものを再確認するという点では良かったと思うのですが、何も受験のときにしなくても思っています。今、大学も通称名で通っています。アパートは実名で借りました。印鑑も2つ持ちで、かなり複雑な状態になっています。

18歳で措置解除になると、私と次男とは何の関係もなくなっていました。もちろん里親ではなく、親権もありません。そうすると、例えば保証人としての続柄を書くにも親でもないし何て書いていいのか分からなくなってしまう。里親として離れ、今、言葉に表せない関係になっていますが、私はその関係はとても良いものと感じています。日常生活では自立させたので、18歳以降そんなに関わるつもりはないのですが、本人が困ったときには必ず連絡が入ります。保証人でいると、外部からも連絡が入りますので、あの子の生活を見守るのには十分です。ただ、18歳で色々なものを背負わなければならなかったことを、普通に育ててきた中で少しずつ伝えていければ良かったのかなと今になって感じています。

次男から、「これから帰る」というLINEがよく入ります。「どこへ？」と私が送ると、「〇〇〇」と言います。帰ると言ってくれること、それが16年間育ててきた証なのかなと思います。甘えん坊の子が一人で生活して、色々な面に対処できるようになったことが私たちと生活した結果であれば、それはとてもうれしいことです。もうお母さんと甘えてくれるわけでもなく、淡々と冗談を言ったり、帰ってくるとテレビを一緒に見たりします。それが心地よいのです。

今度は三男の話です。次男が自立しましたので、「同じように6年後には僕も家を出て自立する」と言っています。今は反抗期で一番大変な時ですが、色々なことをお兄ちゃんたちから学んでいます。上の2人も帰ってくると勉強や面倒を見てくれるので、やはり家族が多いというのはありがたいことです。三男はちょっと特徴のある子ですけども、その子の成長の一助になっているのでしょう。まだまだ分からずやの三男をあと5年半育てていけるかどうかちょっと心配ですが、ひとりっ子になった分手をかけられる、皆さんの御協力をいただきながらやっていければなと思います。

「里親生活」って良いものかと聞かれたら、ちょっと間は空きます。18年間色々な思いをしてきたので、ちょっと間が空いてしまいます。「良いものだよ」と即答はできませんが、私にとって充実していることは間違いありません。子どもにとっての最良を目指してきましたが、大変な日々も、良き日々もあって、全員で暮らしてこられた、それが「家族」だと感じています。この家族を作ってくれた「里親生活」は、やはり「良いもの」だと思います。

2 M君との日々 ～僕のおうち～

【里母】

中学3年の女の子と小学3年の男の子の実子がいって、そこに今3歳の男の子を預かって半年くらいになりました。M君と初めて会った時は2歳11カ月。人懐っこくて可愛いけど遊びに集中する時間が短くすぐ気がそれるのと、抱っこした時に硬いというのが第一印象でした。交流を始めてからは、試し行動なのだと思いますが、例えば唾を吐いてみたり、食事の時に焼きそばが宙を飛んだり、そんなことが色々あり「ああ、これがそうか」と思いました。外泊が始まっても、場所見知りも全然なく本当に楽しそうに過ごしていましたが、寝る時間になった時、ふと、ぶわーっと泣き出しました。余りに突然で「何か痛い？怖い？」とか「学園（施設）帰りたい？」と思いつくことを聞いてみましたが「違うの、違うの」とただエンエン泣いていました。3歳直前の子供が一人で突然よその家に来て、多分普通だったら「ママー」と泣くところだろうなと思うと、M君の複雑な心境に胸が痛みました。委託後、M君から一日何回も「ここが僕のおうち？」と聞かれました。その度に「そうだよ」と答えました。頻度はだんだん減ってきましたが、今でも時々思い出したように言います。慣れてきてからは、都合の悪いことが起こると「学園に帰りたい」と言ったりします。それは笑ってスルーしています。生活習慣が施設と家では全然違うので、M君は大変だったと思います。食事面では、家では定時に出てこない、失敗作や残り物も出てくる、大皿から分けて食べることも最初はわからなかったと思います。なくなるまで食べなきゃと思うのか、本当にお腹が空いているのか、とにかく食べる。空腹感とか満腹感が湧かないのかなと不思議になることがあります。対人関係では、社交的というか誰にでもどンドン近づいてしまう方です。急にぺたぺた甘えて機嫌をとったり、会話に無理やり割り込んできたり、些細な嘘をつくみたいなことが沢山あります。一番家族の心にこたえました。自分でやったことを認めなかったりするので、息子はM君を可愛がっていますが、軋轢も絶えないです。私は家族の中で言い出しっぺだということもあり弱音を吐けないぞというのがあったり、大事な家族が疲弊しているのを見て、何とかしなくちゃみたいな、そんな思いもします。今回振り返る中で、しんどい話を沢山しましたが、しんどさに混じって随分変わってきたことも見えてきました。まずM君の声のトーンが、叫んでいたのが優しい声、可愛い声に。吃音もなくなり、笑い方や泣き方も、イライラしている感じではなく、本当に楽しそうに笑って、悲しそうに泣くようになってきました。保育園や里親仲間も支えになってくれています。里親の仲間と、喜びや悩みを共感できることは本当に有難いことです。息子とM君との喧嘩のことを相談した時に「あるある。大丈夫、そのうちどうでもよくなるから！」と言われて、肩の力が抜けたこともあります。家族との絆も深め合えていると思います。これからもM君の安全基地になれるといいなと思っています。最後に、M君がどんな風に考えているのかなと日々思い巡らせる中で、M君目線で語ってみたいくなって書いてみました。ちょっと読ませてください。エピソードは事実に基づいています。

～僕のおうち～（一部編集）僕はもうすぐ4歳。生まれてすぐ乳児院っていうところに行ったの。沢山先生達がいる、色んな人がお世話してくれたよ。でも、2歳の時に学園に行くよって言われて行ったんだ。わけわかんなくて泣いた。アンパンマンのビデオを見せてくれて、20分で泣きやんだって。学園は大人もお兄さんもお姉さんもいっぱいいる。大好きな先生とおやすみなさいってしても、次の朝起きると違う先生になってるんだよ。もうすぐ3歳になる頃、急にOさんっていう人が来て、ママとパパなのかなって思った。おうちに何度もお泊まりに行くと、今日からここがおうちだよって言われたの。そんなこと言ってもまた急に違うところに行くのかなって心配で、市役所とかいう知らないところに行った時も「ここに僕を置いていくの？」って聞いてしまった。何度も何度も「僕のおうち？」って聞いて確かめたよ。これからどうなるのかの予定もいつも確認する。おうちにはね、パパとママとお姉ちゃんとお兄ちゃんとおばあちゃんと、あと猫がいるんだ。家族って言うんだって。お兄ちゃんは僕が玩具を触っただけなのに壊したってすぐ怒るんだ。そこに置いたお兄ちゃんのせいだよ。壊れたらまた買えばいいんだよ。でもね、一緒に戦いごっことかサッカーする時はすごく格好よくて大好きだから、いつもお兄ちゃんのまねしたり、お話途中に割り込んじゃうんだ。お姉ちゃんはずっと部活に行ってたけど、今はお部屋にいて、入っていくと怒られる。勉強の邪魔はしてないよ。音楽聞いてたよ。でも、いつも抱っこしてくれるんだ。いいでしょう。パパは怖いよ。皆が僕の方を見てくれてない時に、おしっこ出ちゃったってやってみせたらすごい怒られた。でも、帰ってくると嬉しいし、外で一緒に遊ぶのも嬉しいんだ。ママはふざけてる時は楽しいけど、疲れた、うるさい、あっち行ってとか言って、ソファで寝転んじゃうんだよ。いつもするグッナイのぎゅーは大好き。次の朝も、僕の次にママが起きてくるから、ママが違う人になっちゃわないように、ずっとママの後をついてって喋るんだ。御飯はね、昨日のが出てくることもあるよ。残り物って言うんだ。途中で食べられなくなって、大抵最後になっちゃう。お腹ペコペコなのか、お腹いっぱいなのか、よくわかんないや。いつもおやつは棚にあるんだよ。すごいでしょ？「焼き焼き食べたことある？」ってこの間、聞かれたからいつものくせで、考えないで「あるよ」って答えたら、お兄ちゃんが卵は割ってほぐしてくれたの。いただきまーすって言って全部飲んだんだ。ママが「あーっ」って言ってから半分卵分けてくれて、お肉とかつけて食べた。そういう食べ方もいいね。ママとパパとお姉ちゃんとお兄ちゃんと僕は名前は違うけど家族。ここが僕のおうちだよって。「ずっとだよ」ってママ言ったよね。そうだよ。僕は大きくなったらパイナポーになるんだ。ほら、飛行機の運転する人、パイナポー。

3 私と里親

【里子】

私は今年大学4年生になり、大学では経済学を学んでいます。来年は卒業して、電子部品メーカーに勤める予定です。本日は、私が里親家庭で育った経験についてお話しさせていただきます。

そもそも私が一時保護された理由は、高校生のとときの父からの暴力でした。私は小学生時代、中国に留学し、中学のときに帰国しました。帰国してしばらくおじいちゃんとおばあちゃんと一緒に生活していました。高校に上がるのを機にお父さんと一緒に暮らすようになりましたが、これまで長く離れていたこともあって、父との関係がうまくいきませんでした。それまで父に叩かれることはなかったのですが、いつか怒られたことをきっかけに、ほぼ毎日暴力を受けるようになりました。その当時私が置かれた状態としては、ごはんもまともに食べられない、家に帰ったら必ず怒られて殴られる、高校も上がったばかりで学校ではまだ人見知りをしているような感じでした。そんな環境の中で、精神的にも身体的にも追い詰められて、限界を感じて、自分から児童相談所に駆け込みました。そのまま一時保護されて、ファミリーホーム、里親家庭に出会うことができました。高校一年生の秋学期のころでした。

ファミリーホームに来たばかりのとときの私は、児童相談所の担当者以外の人をあまり信用できませんでした。ファミリーホームなのでほかにも5人ほど里子がいて、ほかの里子たちになめられていじめられないようにしなきゃ、でもここで生活していくのだからみんなと仲良くしたいな、どうみんなと距離を縮めようかと悩んで、家の雰囲気にも自分も早く馴染みたいと思っていました。「行ってきます」と「ただいま」を恥ずかしながらかなぜかすんなり言えず、家に帰ったときも家の前で1分くらい自分の中でただいまの練習をしてからドアを開けていました。そんな感じで家の中ではかなり緊張していました。他の里子や里親さんが私のことを特別視することもなく、普通の態度で接してくれたおかげで、初めは緊張していた私もファミリーホームで過ごす時間に次第に慣れて、日常だと感じられるようになりました。

家に帰れば、今日学校であったことを話せる家族がいて、温かいごはんが出てくるし、暴力もふるわれない。私はこの生活にとっても満足していましたが、どこかで私はこの家の一員になれているのか不安に思っていました。なぜなら、ほかの里子は幼稚園など小さい頃から預かっていますが、私はもう高校一年生と大きくなってから来ているので、里親さんからすれば私はとても突付きづらいただろうなと思っていました。他の子どもに比べたら一緒にすごした時間が浅すぎて、自分がこの家に馴染めなくてもしょうがないことだと思おうと思っていました。

高校3年生のときにその考えが変わるきっかけになることが起こりました。私は高校生のとき、陸上部に所属し、ハードルを専門競技にしていました。そのハードルを練習中に靭帯をきる大きい怪我をしたことがありました。どうしてもひとりでは家に帰れな

くて、里親さんに車で迎えに来てもらうしかない状態になりました。そのとき私は実の両親がこの状態だったら、「忙しいときにこういうめんどくさいことを起こすな」と言われて怒っただろうなと思いました。里親さんは私に怒りはしないけれど、めんどくさいことには変わりはないだろうなと思いながらも連絡をしました。

片道1時間もかけて、迎えにくれた里父さんは、愚痴を言うことなく、いつも通り接してくれましたが、私は申し訳ない気持ちでいっぱいでした。帰り道に私が落ち込んでいるのをみて、里父さんは「お腹すいたでしょ？なんか食べる？」と言って、ファミレスに連れてくれました。一緒に話している中でも、「大丈夫？これから大変だけどどうしようか？」など気を遣って、心配しているのが伝わってきて、心がジーンとしました。そのあとも学校まで毎日送り迎えするなど、治るまで長い間サポートしてくれました。

このことをきっかけに、里親さんの私に対する気遣いに気付くことができました。例えば私が大会で早朝、みんなが起きていないような時間に家を出ないといけないときに、前日にお弁当をつくってくれて、その上に手紙も添えてくれていました。大学受験のときも私のペースに合わせてくれていたり…早く馴染めるようになりたいとか他の里子に比べて私は一緒にいる時間が浅いとか周りばかり気にしていました。しかし徐々に周りを気にしないようになって、自分と里親さんの関係だけを見るようになってから、今までも、今も優しく暖かい眼差しを向けてくれているということにやっと気づくことができました。

私がファミリーホームにいた時間はほかの子に比べれば少なく、約2年半でしたが、今でも私が安心して帰れる場所はここです。私が帰る回数は余り多くないのですが、いつも急に帰っても、温かく迎えてくれます。おいしいごはんを出してくれたり、近況報告をしたり、他の里子とどうでもいい話をしたり、就活などで悩みを話しているときもいつも熱心に耳を傾けてくれます。

私は、自分のように心に傷を負った子どもたちは、その心を癒やすだけではなく、その場所を卒業してからも自分が安心して帰れると思える場所や、心のよりどころが絶対必要だなと思います。私の場合、今の里親さんのところが私の自分のよりどころだと思っています。何かあったら相談できる、何かあったら帰れると思えるから、大学でもひとり暮らしをして、ゼミのプロジェクトだったり、サークルや部活の幹部をやったり、キャパオーバーとわかりながらもいろいろなことにチャレンジして、前向きにここまで生きてこられた気がします。里親さんがいたから大学生時代も頑張れたなと本当に心から思います。今、私と同じような境遇で虐待を受ける子が増えています。多くの子供たちが私みたいに温かい家庭に出会えたらいいなと願っています。そのためにもひとりでも多くの方が里親家庭に理解を持っていただけると幸いです。

4 思いっきり甘えられる環境

【里母】

現在、里子と私たち夫婦の3人で暮らしています。里子を受託してから今月で丸9年になります。受託したときは2歳であった里子も11歳になりました。

まず、里親になったきっかけです。2年間ほど不妊治療をしましたが、高齢のため子供に恵まれませんでした。時間とお金のかかる不妊治療をしながら子供が欲しい理由を自問自答した結果、答えは、実子にこだわりなく子供を育ててみたい、子育てにかかわってみたいということでした。東京都の里親制度を知ったきっかけは私の母からの情報でした。母に不妊治療や子供に関する相談をしていくうちに、東京都に里親制度があることを教えてくれました。早速インターネットで制度の内容を確認して、体験発表会に参加し、発表者から実情を聞いてみました。その後、主人に相談し、申し込み、研修を経て、10年前の2009年10月に里親として登録をしました。

次に、引き合わせから交流についてです。私たち夫婦は、幼児で長期養育という条件で委託を希望しました。その理由は、子供を育てた経験がないので思春期のお子さんは難しいし、幼少期からかかわったほうが関係を築きやすいように思えたからです。そして、登録から3カ月後の2010年1月に、1歳になる女の子を紹介いただけるお話を受けました。その後、児童相談所の職員が自宅に訪問してくださり、紹介された子供についてのお話がありました。職員からいただいた子供の写真は、やっと立ちができた満1歳のお誕生日の写真でした。満面の笑顔が愛くるしい、この子供を家に迎えることができるのは夢のように思えました。

そして、子供との引き合わせは3月に決まりました。どきどきしながら2階のプレイルームに行ってみると、子供は他の子供たちと無邪気に遊んでいました。初対面の私たち夫婦、児童相談所の職員など見なれない顔がぞろぞろあらわれて、泣いてしまうかと思いましたが、こちらの様子をうかがいながら少し緊張した様子で遊んでいました。

さて、いよいよ私たち夫婦と子供との面会となりました。乳児院の職員はほとんど女性なので、主人が接するのは難しいかと心配していましたが、その子供は、主人を見つけて近寄ってきました。そして、自分で遊んでいたおもちゃを主人に持ってきて、遊んでいた様子でした。この瞬間に、私は、この子供を養育することに戸惑いが消えました。

その後交流が始まりました。交流は大きく分けて4段階でした。まず、第1段階目は、1週間に3回ほどの面会で、平日は午前中、週末はあいている時間帯に面会しました。そして、第2段階目は、平日面会と週末外出でした。続いて、第3段階目は、平日面会と週末お泊まりとなりました。最後、第4段階目では、お泊まり期間を長くしていきましました。私の場合は交流期間が長く、約8カ月間でした。当時、私は、エンジニアとして会社に従事していました。交流期間を通して平日の面会がありましたが、上司や同僚に事情を伝え、理解をしていただきましたので、特に問題はありませんでした。

続いて、委託になってからの様子についてです。順調に交流が進み、委託へ移る時期になったところで、仕事と育児の両立に関して困難な場面がありました。まず、委託開始となった際は、子供が家庭環境になれるまで最低1カ月間ぐらいは、主な養育者である里母の私が仕事を休み、ゆったりとした時間の中で子供とかかわることが重要と思いました。しかし、会社の規程では、実子または養子に対する育児休暇や就業時間短縮は取得可能ですが、里子に関しては対象外でした。そこで、人事に相談の上、特認休暇扱いにいただき、2カ月間の休暇予定で委託開始日から休暇をいただきました。

会社に復帰する際には、幸い、会社近くの認証保育所で空きがあり、入園することとなりました。結局、約1カ月間休暇を取得して、会社に復帰しました。会社までは電車やバスを使い、片道約1時間かけて通園しました。今思うと、このころが子供にとって一番ストレスが高かったように思えます。私が休暇中には夜泣くことはなかった子供がなかなか寝つかなくなり、手足をばたばたさせて大声で泣くようになりました。保育所に預けられて不安と興奮があったのか「ママ、来ない」と泣くこともあり、私に不満を訴えているようでした。マンション暮らしのために、このような状況では階下や隣人へ迷惑ではないかと不安になり、この家では育てられないと何度も弱気になりました。でも、ここでこの子が家から以前の施設に戻っても、その先は施設暮らしが続くかもしれないと思うと、「ママ、ママ」と慕っている子供を委託解除できませんでした。結局、数週間後に状況は徐々に好転して、子供は日が経つにつれて保育所に慣れ、夜も泣かなくなりました。

その後希望していた区立保育園に入園し、保育園の送り迎えはパパとママが協力して送迎をしました。登園時には、子供は保育園に着いてもパパと一緒に遊んでほしいとせがむので、パパは子供としばらく遊んでいたようです。そのため、子供のクラスの活動開始時間を過ぎてしまうこともあったようです。園長先生は、パパが子供の気持ちを受けとめていてほほ笑ましいと話してくれました。子供はパパが大好きで、施設育ちのため、女性としかお風呂に入った経験がないにもかかわらず、交流中のときからパパとお風呂に入ることに抵抗がなく、お風呂でのスキンシップを楽しんでいました。

子供は施設で保育士さんなど皆様から愛情を受け、情緒豊かに育てられていたことと思いますが、親子の関係での愛情は薄かったせいか、人一倍甘えん坊さんで、私がトイレに行くときでさえ一緒についてきていました。まだまだ、ママとしての愛情が足りないのかなど思ったりして子供の名前を呼びながら「ママの大事、大事だよ」と言って、ぎゅっと抱いてあげていました。そんなときには、甘えてもらえてとても幸せと子供に感謝していました。そして最後に、人様のお子さんを育てられるのかとは誰もが思うことですが、愛情を持って丁寧に接することで、人様のお子さんとの間でも深い関係を築くことができると信じています。里親になってみたい方が会場にいらっしゃったとしたら、ぜひ里親になることを前向きに検討していただきたいと思います。そして、一人でも多くのお子さんが家庭で養育されることをお祈りします。

5 我が家の可愛いアンパンタロウ

【里母】

今日は、うちの家に来て7年になる小学校6年生の男の子の話をします。うちの実子は息子一人です。この子が小さい頃からずっと、弟が欲しいと言っていました。私も保育所で働いていたこともあって子供が好きで、子供がもう一人いればいいなと思っていました。8年前に里親のことを知り、うちの家は学校と公園がすぐ近くにあって、子供に来てもらうにはとてもいい環境だと思いました。そして、当時4歳10カ月だった男の子を紹介してもらいました。

最初の印象は、アンパンマンみたい、可愛い…でした。そして、そのアンパンマンの顔は、実子が4歳の時の顔とそっくり。本当の兄弟のようでした。交流の時には私と会うのを嫌がったこともありましたが、でも、何回も会ううち、心をだんだん開いてくれました。3ヶ月間交流をして、5歳になって間もないときにこのアンパンマン君はうちの家族になりました。私はその時から彼のことをタロウと呼んでいます。

タロウがうちに来た最初の日話です。夫が、「明日の朝は何が食べたい？」と聞いたら、タロウは「チョコパン」と答えたのです。それで、夫は近くのスーパーに行ってチョコパンを買ってきました。するとタロウは困った顔をして、違うと言いました。タロウが言っていたのは食パンだったのです。「ティッシュください」は、「ヒッチュください」でした。今でもうちの家は、食パンをチョコパン、ティッシュをヒッチュと言いつつ、懐かしく思い出して、笑っています。

一方で驚くこともありましたが、アリなど昆虫を怖いと言って、草や花にも全く触れようともしませんでした。また、川へ遊びに行けば、魚に噛まれると言って嫌がり、うちで飼っている小型の犬にも触れませんでした。これらは都心で育ったためかなと思い、少しずつ慣れてもらおうと考えました。まず、市民農園の畑を借り、ジャガイモなどを植えました。収穫の喜びが分かってくると、自分から畑に行きたいと言うようになりました。作戦は成功でした。また、うちの犬はタロウが幼稚園から帰ってくると全身でおかえりと喜びの気持ちを示しました。これでタロウは犬にも慣れ、夜はベッドで犬と一緒に寝るようにもなりました。5年生の時に移動教室に行って、先生が川で魚をつかまえるお手本を示したところ、タロウはようやく、あれだけ怖がっていた魚も手で掴めるようになりました。

タロウはいたずらもいっぱいしました。ソファをカッターで切ったり、家じゅうのボールペンを分解して中の芯をはさみで切ったりもしました。これらは試し行動だったと思います。私たちはこうした行為に対して100日間は全く怒らず、タロウのやりたいようにさせてあげて、無理に直させようとしなくていいと心がけていました。

食事の面ではこだわりが強く、同じ野菜でも自分が好きな形に切ってあげないと食べませんでした。私はタロウに「どんな形なら食べるの？」と聞いてから料理していました。このこだわりの強さが小学校では周りの同級生と合わずに、一時、仲間外れや衝突

の原因にもなりました。周りと合わせないといけないことも時にはあると学んだのか、まだ完全ではないのですが、友達と仲よく遊ぶようになりました。

タロウはネフローゼの治療で薬を長く飲んだために骨がもろくなっています。このためスポーツは余りできず、図書館に連れて行ったり、映画を見たりしました。そのおかげだと思いますが、タロウが小学校3年生と5年生のとき、地域の小学生の詩集に作文が載りました。これはとても誇りに思っています。

6歳と3歳の姉弟が短期間うちに来た時のことです。私が風邪を引き、夕方少し寝過ぎたことがありました。すると、タロウが夕食を作ったのです。そして、子供たちにちゃんと野菜も食べなさいと勧めていました。立派なお兄ちゃんでした。小学校4年生と5年生の姉妹が2ヶ月間家に来た時です。彼女たちは兄弟が多いため、やりたくてもやれなかったことがいっぱいありました。私に、1泊の旅をしたい、ホテルに泊まりたいなどと言っていました。なので、手伝いや掃除、犬の散歩をしたら50円。姉妹は本に興味がなかったため、10分間本を読んだら100円。そうして貯めたお金で旅行に行こうねと言いました。自分たちで仕事をすれば夢がかなうことを教えたかったのです。そして、家族6人で富士山の河口湖に1泊旅行をしました。タロウは初めて自分と似た年ごろの女の子と過ごしました。最初のうちはぶつかったりしましたが、少しずつ相手を理解するようになりました。こうした経験もタロウを成長させたと思います。

タロウはこうしてすくすく育っていますが、最近は思春期です。私が注意すると、ぶすっとした顔をして言い返したりします。子供の頃から自分の考えがちょっと強い子でしたが、一層強くなったような気がします。ただ、それ以上にタロウがうちに来て幸せだと感じる時が100倍あります。日々の生活の中では、時間に追われることもなく、自分から進んで学校に行きます。時間の管理がしっかりできる子です。私が重い物を持っている時には、自分から気がついて、荷物を持ってくれます。スーパーで買い忘れたものがあると、積極的に自転車に乗って買いに行ってくれます。タロウはよき相談相手になってくれて、たまに友達のようなだなど感じています。

私は、今、自転車に乗っているタロウの後ろ姿が大好きです。その理由は、家に来た最初のころは私の後ろをついてくることに必死だったのが、いつの間か私がタロウについていくのに必死になってしまいました。その必死でついていきながら見えるタロウの頼もしい後ろ姿は、いつ見ても、格好いい、幸せを感じています。

終わりに、当たり前ですが、子育てはこちらの思ったとおりににはなりません。子供は思ったように動いてくれません。ですが、大人が愛情を持って、いつでも同じ姿勢で接してあげていれば、子供はそれにいつか必ず気がつき、思いやりのある、世の中のために貢献できる大人に少しは近づいてくれると信じています。アンパンタロウ君は今、私たちの家族にとってかけがえのない存在になっています。これからも私たちはタロウと一緒に成長していきたいと思っています。

6 短期でも大変。でもその何十倍もの幸せが。

【里母】

私は里親の経験は浅く、短期の預かり2回の体験しかありません。まだまだ経験が浅い私だからこそ思ったことなどをお話しさせてください。我が家の家族構成は、主人、実子の小学3年の息子と私の3人です。初めての短期のお預かりの機会は、突然やってきました。車と電車と体を動かすことが大好きなザ・男の子という感じの3歳のK君。児相から連絡を受けてから3日後に、2～3日用の旅行用バッグに、洋服3～4着、おむつ10セットなどを持ってやってきました。事前の連絡では、K君の性別、年齢、家庭状況、預かる期間などに加え、とにかく元気な子であること、発熱時など心配なことがあった時の注意事項や対応方法を色々と教えていただきました。実際に預かると本当に元気で、自宅のソファがトランポリンになりましたが、職員さんが帰った後、残されたK君が“寂しいな、ここはどこかな、どうしたらいいのかな”といったような不安そうな顔をしていたことを覚えています。そして、私自身も“K君が泣いてしまったらどうしよう、少しでも帰りたくなっちゃって、悲しくなっちゃったらどうしよう、それを減らしてあげるにはどう接したらいいのかな”と不安になったことを思い出します。お互いに不安だったように思いますが「お昼ご飯はちゅるちゅるのスパゲッティだよ」と話しかけると、その一言でにこっと笑ってくれて、そこからお話が広がりました。1日目はとてもいい子で、“元気”と聞いていた通り、全然じっとしていません。元気を使い果たしに公園にも行きました。実子の友達に会った時には「こんにちは、僕、Kです！」と挨拶し、お風呂も夕食の野菜もちゃんと食べる、びっくりするぐらいいい子でした。ただ“これが30日間ずっと続きました”というお話になったと思いますか？いえいえ、そんなことはありませんでした。翌朝からだんだんわがまま君に。「嫌だ嫌だ、もう知らないよ」という言葉が多くなり、夕方には、しくしく泣いてしまいました。そりゃそうです。幼い子が知らない人の家に来て、知らない家族と過ごすのです。大人であっても、同じ状況に置かれたら、すごくストレスがたまると思います。本当にすごいことだと思います。しかし、そのことが頭ではわかっているけど心でわかるということができたのは、K君の激しい試し行動が続いて、里親としての自信がぼろぼろになった頃だったかもしれません。試し行動については、里親登録時の研修や里親サロン、先輩の里親さんのお話で聞いて知ってはいて、勉強もしていたつもりでしたが、新米里母、里父はK君のお試し行動に振り回されるのでした。一番困ったと思った行動は、公園で遊んでいる親子に砂や石を投げるというものでした。私が“お友達がけがしたら大変だよ、K君はいけないことやいいことがわかるよね”と声をかけると、目に涙をためながら投げ続けることもありました。私の声かけがいけなかったのかなと悩んだり、自分の子育てや声かけがK君を落ち込ませてしまったのかなと思ったり、すごく不安になりました。児相の職員さんにも相談し、そこはすごく心強かったです。遊びに行く公園、遊具の種類などを変えてみたり、親子が少ないかなという時間帯に遊びに行かせたり。それでも

砂を投げてしまった時には、K君とその場を離れる日々が続きました。2週間ぐらいで激しい行動は一度おさまったように記憶しております。K君のこと、頭ではわかっていたつもりでしたが、心で理解してあげることへの努力が、最初は少なかったように思い、その時反省しました。“悲しい、不安だ、この家は僕に優しくしてくれるかな、やっぱり早く帰りたいな”等のK君のうまく言葉にできない気持ちが、仲よく遊んでいる親子に砂等をかけるといった問題行動になったのだなと心から思いました。必ず親子に投げかけていました。K君が危ない行動をしたらもちろんとめますが“K君、お母さんと離れていて悲しい気持ちかな、ちょっといいなという気持ちが強くなっちゃったかな”等とお話しながら、抱き抱えてその場から離れることを繰り返しました。すると、問題行動が少しずつ減って、代わりに“お菓子を買いに行こう、もっと公園で遊ぼう、抱っこして”等の可愛いわがママが多くなりました。そして、かわいい笑顔やエピソードを置いていってくれました。実子とはよくお菓子の取り合いや口げんかもしていましたが、一緒にお風呂に入って湯鉄砲をしたり、実子も「Mお兄ちゃん」と呼ばれて毎回嬉しそうなお兄ちゃんの顔になり、K君と過ごした1カ月間はにぎやかで元気いっぱいな毎日でした。最後の日は、朝からべたっと私にくっついて離れないという行動に出てくれました。一日中「抱っこ、抱っこ」、ブランコも「一緒に乗る」、ソファーに座っている時も「抱っこでなきゃ嫌だ」という、かわいいわがママ君でした。ちょっとだけ私の年齢だと大変でしたが、その甘えが愛情なのかと嬉しい気持ちでした。私たちもK君のおかげで充実した日々を過ごすことができました。短期であっても、その間家族であったと心から思うことができました。これからもK君の幸せを願っています。

里親経験2回目は3歳の女の子、Sちゃん。5日間でした。児相から連絡があったその日からの緊急のお預かりでした。1日目は本当に笑顔を作って頑張りましたが、2日目の夜から悲しくなって、火がついたように大泣きをしました。何時間もです。それがSちゃんの試し行動なのかな、ストレスを出しているのかなと思い「そうだよね、嫌だよね、頑張っているよね、早くママ、元気になるといいね、なるね」と優しく話しかけたのを覚えています。2日目と3日目が不安や悲しみが強く、予定より2日早く帰る日が決まった時、Sちゃんは、ただ「ママのところに帰る、やったー！」と言うだけではなく「ママ先生（里母）と本当のママのところに一緒に帰るの」と。その一言に、報われるといいますか、お預かりさせていただいてよかったな、楽しかったな、本当に心から思いました。里親は短期でも大変です。しかし、それ以上に何十倍も幸せだったり、やってよかったなと思うことがあるので、きっとやめられなくなります。そして、里子との生活を通して里親も育てられているように強く思います。これからも成長していきたいです。

7 実子と里子と働く母と

【里母】

現在、実子で小2の兄、年少のSちゃんと4人の家族になっております。2年前から兄が年長のときからお預かりしています。実態としては、今、実子と同じように育てている状況です。

なぜ私の家族が里親、養育家庭になろうかと思ったかといいますと子供の色々な問題とか、自分も子供を持つようになって子供が親を思い求めて泣くという状況がどうしても見過ごせないと思っていました。兄も私ども親も家族を増やしたいなという思いもあり、夫の「自分の血の繋がった子供じゃなくてもいいんじゃない」の言葉があり、兄相に問い合わせた次第です。夫婦の考えは割と最初から一致していて、家族は血じゃないと考えていました。当初は、養子縁組を考えていたのですが兄相で話を聞き夫と養育家庭に考え直しました。共通している願いは一人でも多くの子供の本当の心からの笑顔を守ってあげたいなというふうに思っています。

実子とSちゃんは、お預かりして1か月後にはすっかり仲よくなり半年後には、兄は「弟は俺が守る」というのが口癖でした。兄はもうSちゃんが可愛くてしょうがなくてSちゃんも本当にお兄ちゃんが好きで兄の真似をしたり同じことをやりたくてかなりやんちゃな子です。本当に仲よく遊んだりしつつもけんかも勿論あります。兄が甘えん坊でがんと甘えをぶつけてくるので、2人を抱えつつ、日々組んずほぐれつで暮らしています。

周りの人との関係では、Sちゃんが来たのが、兄が年長の時だったので子供たちが「あれっ、何で家族がふえたの」とか聞いて来ることも。保育園の先生と相談をして、本当のことをそのままストレートに話そうということになりまして、保育園の親の集まりがあった時、「こういう事情でお預かりしている子です。子供に聞かれたら事情をそのまま答えてください」とお話ししました。子供たちの受けとめる力って本当にすごくて、そのままそういう子なんだと受けとめてくれていました。みんなが応援してくれて本当に色々な人たちに支えられて過ごしている状況です。私がフルタイムで働いているということもあってうちの母親と父親、夫の父母も手伝いに来てくれては分け隔てなくかわいがってくれています。Sちゃんを受入れた6月から3月は職場を自己理由で休職しました。それがとてもよかったとされていて日中はSちゃんと一緒に、兄が帰ってきたら兄をメインでというふうにできたので兄の不満は一切なくて。「Sちゃんが来たことでしんどかったり、お母さんとかお父さんをとられちゃったりしたと思った」とか聞いても、「全然そんなことないよ」みたいな感じですよごくあれがよかったと思うので出産の後の育児休暇と同じように休みがとれたら、すごく最高だろうなと思っています。

日々の暮らしは、男の子2人ですし日々ばたばたの状況です。やっぱりしんどいなと思うこともあります。実は、里親に登録した際に共働きだと子供が委託されないのではないかなと思っていたのですけれども結構働いているお母さんでも養育家庭で子供を受

託できるようです。働く母親として一番大切なのは特に母親は子供にとって特別な存在だということをよく理解して子供に対応することが必要なかと思っています。うちは家族全員で家事を分担していて、子供も、タマネギの皮をむくとかマッシュポテトを潰したりとかお手伝いの中で本当にできることが増えていって、楽しく家事を分担している状況です。家庭でしかできない自立の支援の1つのあり方として家事を分担したりしながら一緒に楽しくやっていけたらいいかと思っています。家事ができる男子を育てて将来は働く妻を支える男たちになってほしいなというのもちよっと思っていったりもします。

実子と里子の差というのはあるのかについてですが。夫も私も家族は血の繋がりがなくて重ねた時間とやりとりした思いで繋がっていくと、人間ってそういうものだよなと思っていますけれども、この2年半、Sちゃんと一緒にいて本当にそうだなというふうに感じています。もう2年も一緒にいると家族なので本当に変わらず愛しているのですけれども、あえて母親という立場で一点違おうとすれば、実子は妊娠期間と出産という思い出と一緒に共有しているという点はある。ただ、それはそれとしてあるのだけでもそこに余りこだわってはいけなかなというのは個人的には思っているところです。

里親だからとか里子だからという悩みはまだない状況です。これから真実告知といって「別のお母さんがいて、乳児院で育てられて。だけれども、大事な子としてうちの家族の一員なんだよ」という話はこれから伝えていこうかと思っています。本当に乳児院で大事に育てられていろいろな人に支えられて育ってきていると思うので、本人がいつか道に迷うときがあってもこういうことをそのたび伝えていけたらなと思っています。乗り越えるためには友達や仲間が絶対に必要でこれは里子のSちゃんもそうだし、実子のほうも実子なりに苦しみがあるだろうからそれを共有できる本当のことを話せる友達をつくってほしいかと思っています。親も、やはりそういう人間関係づくりを背中で見せていきたいかと思っています。生まれてきてよかったかと思ってもらいたいなというふうに思っています。

やはり子供には、その子供と向き合う大人、お互いに一番大事だよというそれで常にそばにいるという存在が大事で、それが家庭の役割じゃないかかと思っています。「あなたが一番大切だよ」と子供に伝えてその子供もその言葉を心から信じられることが目指すところであり、養育家庭の家庭ならではのできることなんじゃないかかというふうに思っています。

真実告知はこれからするのですけれども、そういったことを年齢に応じて繰り返し繰り返し伝えて信じてもらえるように一生懸命やっていきたいというふうに思っています。家庭で笑顔を持てる子供がふえていったらいいなというふうに願っています。

最後になりますが、私どももSちゃんを迎えて2年半たちましたけれども賑やかに幸せに暮らさせてもらっています。里子を迎えていなければ考えなかったであろうこともたくさん考えさせてもらっていて本当にいろいろな意味で感謝しています。

8 里子生活を振り返って

【元里子】

2歳から里親家庭に入りまして、Hさんの家にお世話になりました。

まず、里子ならではの困ったことで名前について聞かれるのですが、保険証やパスポートでは絶対に本名が出てしまうので、隠そうとしても隠せないというのがありました。高校の頃に、仲の良い友達がいる、その子に初めて実名を言いました。おまえ本当に血がつながっていないのか、マジか、みたいな感じになると、今後どう接していいかわからないし、ちょっと怖かったですけれども、言ってみると、「ああ、そうだったんだ。でも今までと変わらないから」と言ってもらえました。

それからは高校のなるべく仲の良い友達を選んで言っていたのですけれども、3年生の修学旅行でパスポートを見せたときに、「Tさんでよろしいですね」と言われ、それを聞いていた他の子に、「何でTなのか」「親が再婚したのか」と聞かれました。両親健在なので、「親とは血が繋がっていない」と話しました。そうしたら、仲の良かった友達と反応が全然変わらなくて、怖がらず言ってみても変わることはないというのが分かりました。大学からはもう実名で通いました。なので、名前の件に関しては、言っていないと思います。

血が繋がっていないことが悪いとか、いじめられる対象にもなるのではないかとよく聞かれますし、そういう例もあると思うのですけれども、血が繋がっていても繋がってなくても、結構変わらないと思うのですね。十人十色みたいな感じで、一大家族一大家族で絶対違う家族だと思うので、たまたま血が繋がっていなかったというだけで、そんなに気にすることではないと思っています。

次は真実告知ですね。「血が繋がっていませんよ」と親に言われたのが、小学4年生の頃でした。実は小さい頃から、私たちは血が繋がっていないと言われていたのですが、聞いているようで聞いていませんでした。里親子の交流会にも行っていたのですが、町会の集まりみたいなイメージで、里親家庭の会とは全然分からずに遊んでいました。両親と喧嘩しているときに何かのはずみで、「実は私たちは血が繋がっていないのよ」と言われ、最初は嘘だろうと思いました。名前が違う母子手帳もどうせ作り物だろうと思ったのですが、ちゃんと本物でした。最初はショックでしたし、嘘であって欲しかったし、この先どうするのだろうかと思ったのですが、「勢いで言っちゃったけれども、全然今後も変わらないから」と言われました。そこから数日かけて、今まで里親子の会にも行っていたし、心理司のテストも受けたこともあるし、つじつまが合うなと納得しました。

なので、実名や、真実告知とか、そういうのが怖いという人もいますが、怖がらずに進んだほうが絶対にいいです。最終的には受け入れて、乗り越えなければいけないですし、結局自分のありようは知るので、なるべく早いうちに受け入れたほうがいいと思います。俺みたいに小4だと瞬発的なショックが半端ではないです。

あとは大学進学ですね。奨学金を借りるときに、作文や書類を提出するのですが、結構手間取るのです。Hでずっと通していたので、何でTなのかという書類を作成しますし、ありようとか、自分の里子としての生活を作文として書くので、普通の人とは内容が違ってきます。そういう面でも苦労しました。

それから、里親さん同士や子供同士で交流する機会がよくありました。ユースの子とか、体験発表会で発表する子、施設に手伝いに行く子もいますし、心理士になりたいという人もいました。里子の気持ちが分かって助けたいという気持ちはあるので、頑張っている子は多いですね。自分だけではないと感じられる仲間は結構いたので、自分が里子だと受け入れるのに、糧になりました。

それとIFCOという世界大会があります。IFCOというのは、国境を越えて里親子が集まって交流する会です。これまでに3回参加しました。まず1回目のカナダは、中学2、3年生のころに参加して断片的にしか覚えていないのですが、フレンドリーで明るい人たちが多く、本当に同じ里子なのかなと当時は思っていました。

2回目の大阪の時にすごく印象に残っているのが、同い年ぐらいの子と、知り合いに英語を通訳してもらいながら話したことです。その子は両親が事故で亡くなった子で、里親さんを結構たらい回しにされたらしいのです。辛くなかったのかと聞くと、「あちこち行ったのはつらかったけれども、同じ境遇の子は絶対にいるし、自分よりつらい子も絶対にいる。自分が諦めたら自分よりひどい子はどうなの。自分が頑張らなきゃ」と言われて、自分も負けていけないなと思えた時でした。そこからちょっと興味が出始めて、自分も学んでみたい、知りたいと思ひまして、ユースの会や里子の集まりにちょくちょく出て色々と活動しています。

3回目のオーストラリアは今まで参加した中で一番凄くて、驚いたのが、道ばたで歩いている人に「里親を知っていますか」と聞いても、普通に知っているのです。しかも里親さんも多く、実子がいてもいなくても里子をばんばんとる人がいっぱいいました。そして一人一人しっかりと愛情を込めて育てるのです。今、私は幸せですという子がいっぱいいて、自分たちと同じ立場の子が世界にいっぱいいるのです。すごくいい機会だったので、ぜひIFCOに参加して欲しいと思っています。IFCO大会に参加して、里子であることが枷にならないように、自分は里子でだから何と言えらるぐらいの、世界にしていけたらなと思っています。

最後に、自分でも、血が繋がっている親と血が繋がっていない親では、育て方とか愛情とかが違うのではないかという不安もあったのですが、全然そんなことはなくて、逆に血の繋がり以上に絆で繋がっているというのでしょうか、愛情ももらっていますし、逆にこちらも返そうというのもあります。血が繋がっている、繋がっていないは言いわけになってしまっている部分があると思うので、関係なく親は実の子だと思って、子供は実の親だと思って頑張ればと思っているので、ぜひとも里親さんになってくれたら嬉しいです。

9 ほっこりほこほこの毎日を

【里母】

平成 22 年 5 月、養育里親として認定していただきました。

私たち夫婦には実子はおりません。里親になろうと思ったきっかけは、結婚 3 年目ぐらいでした。知人に何人かの里親さんがおられ、よく話は聞いておりました。しかし、仕事の都合上、どうしても定住できない環境にありましたので、里親登録をちょっと断念している期間がありました。しかし、ようやく主人の生まれ育った土地に戻ることが決まり、結婚して 18 年目にやっと念願の里親登録をさせていただくことが出来ました。現在、中学 2 年生のタロウ君と、小学校 4 年生のコナン君がおり、本当に大自然の恵みをいっぱいを受けて子育て真っ最中でございます。

里親認定されてから 2 か月くらいの頃、小学生の兄弟を一時保護という形で、2 週間という短い期間ではありましたが、我が家でお預かりしました。初めてのことで、本当にそれも急だったので、家の中をかたづけ、色々な準備をするのにすごく大変だったなということもありましたが、きちんと普通の生活をさせてあげられたのではないかと思います。これが私たち夫婦の里親としての第一歩でした。

それからまもなく、児童相談所からお電話がありまして「〇〇さんのお宅にお願いしたいお子さんがいます。写真を送るので、まずご夫婦で見てください」と言われました。「その時写真を見て、第一印象でお二人のどちらかでも、何か違うなと感じたら、無理にこのお話を受けないでいいですよ」と言ってくださったのです。初めて里子を迎える私たちの想いとしては、どんな障害がある子でも、受けさせてもらおうという思いでした。しかし、その担当者の方の言葉を聞いて、とても何か肩の力がすうっと抜けて、冷静な気持ちで受けることが出来たように思います。写真が届き、封を開けるときの、ドキドキとした、そんな何とも言えない気持ちでした。写真の中には、本当に子どもらしい何とも言えない可愛い子どもがいました。主人も私も、いいよね、という気持ちで早速このお話を進めていただきました。それから何度か面会し、長期の滞在も済み、我が家への養育の措置が決定しました。

平成 22 年 11 月末から我が家の一員として、一緒に生活するようになりました。保育園は、タロウ君と同じく私もまったく初めてのことだらけでした。若いお母さんたちに交じり、本当に日々奮闘していたと思います。それと同時に近所への挨拶もさせてもらいました。今まで子どものいない我が家へ来たので、タロウ君の写真と、これから一緒に生活します、よろしくお願ひしますといった内容とともに、私たち夫婦が東京都の養育家庭の里親であることも書き添え、地域の皆さんも一緒にこの子を見守って育ててくださいということをお伝えしたのを覚えております。皆さんはとても喜んでくださり、本当によかったなと思いました。このような形がとれた背景には島ということもあったと思います。それと共に、子ども本人が、これからはここで生活するのだと理解できる年齢であったことも要因だったと思います。そして、私は里親であることをオープンにし、里子であるということもオープンにスタートしました。それはとてもよかったのではないかなと思います。

話はかわりますが、コナン君が我が家に来たのは4年前です。タロウ君が小学校4年生の時でした。コナン君は、今後対応が難しいであろうと引き継がれました。確かに思い返すと大変だったなど。でも我が家に来て3か月間は、今まで聞いたことは何だったのというぐらい、保育園でも我が家でも、とてもいい子でした。3か月は一生懸命、子どもなりに気を遣い、頑張ったと思います。でも、それは長くはもちませんでした。一番つらかったのは、思い通りにならなかった時の奇声でした。本当にそのエネルギーはどこから出ると、夏は窓を開けておりましたので、虐待と疑われるのではないかと、いつパトカーが来るのではないかと不安の種でした。

そんな状況が半年以上続き、カウンセラーの方や、子ども家庭支援センターの方、色々な方に相談をしたり、私なりに図書館で障害に関する本を借り、勉強したり、色々試しながらの日が続きました。ありがたいことに、地域の福祉士さん、子ども家庭支援センターの方々に「一人で抱え込まないでね。コナン君はみんなで育てようね」と声をかけてくださいました。身近に頼れる人がいるのだと、1人ではないのだと心強く思いました。相談の結果、通常では例を見ない学年の途中での特別支援学級への編入が決定しました。校長先生をはじめ、教育委員会のご理解をいただき、現在4年生として毎日元気に学校に通っております。

大変な話ばかりではありません。ほっこりした話もたくさんあります。まず、タロウ君とコナン君はとても仲良しです。タロウ君は音楽に興味があり、我が家に来る時に持ってきたピアノを今もよく吹いています。いつの間にかコナン君も巻き込み、歌の練習をしたり、ピアノでは物足りなくなるとキーボードを出してきて、リズムを入れての演奏です。そんな二人、おばあちゃんの誕生日には、おばあちゃんの大好きな曲を演奏し、歌のプレゼントをしてくれます。そういう計画をしている姿を見ると、本当にほっこりします。

大変なことも確かにあります。でも、ほっこりほこほこのほうが断然多いなと思います。我が家の二人の子どもたち。学校などで「あなたの宝物は何ですか」と文集に書くことがあるのですが、本当に必ず「家族」と書いてくれます。彼らにとって「家族」は、今、私たちがなのだと思います。私もタロウ君とコナン君が大好きです。多くの方にこの里子育てのやりがいを感じてほしいと思います。

今回、こういうお話をいただき、私も改めて8年前のことも思い出し、書きだしたら止まらない。でも、大変だったことよりも、ほっこりほこほこの方が断然多かったことは確かです。本当にうれしい毎日です。皆様もぜひ里親になりましょう。

10 児童の命の受け皿になるということ

【里母】

私が養育家庭に登録したきっかけと女の子との出会いのお話を今回させていただこうと思います。養育家庭を始めようと思った当時、義父と主人、娘と私の4人家族で、娘も中学生になっていました。現在も活動していますが、青少年健全育成会という、地域の団体に私は所属していました。当時はその中に、研修部会というものがありました。私は4年間研修部会を務め、最後の年に委員長を務めさせていただきました。研修部会では年に1度講演会を開催しており、その議題として児童虐待を取り扱うことになったことが、養育家庭を知ったきっかけでした。

前年に市内で幼児の虐待死事件があり、それに伴って、会の中で児童相談所の福祉司から現状と虐待について話を聞きたいという要望がありました。児童福祉司を紹介してもらいましたが、講演の内容的に行政からの要望で残念ながら中止となりました。しかし、この機会を無駄にせずに、自主研修として地域24地区の委員の方と福祉司の話を聞き、児童相談所の役割と内容を知ることになりました。

自主研修の後に、福祉司から家庭に恵まれない子どもを預かる制度があるから登録してみないかとお話を頂きました。しかし、当時はまだ高齢の義父がおり、お断りをしました。けれど、もしできる時が来たらということを前提に、登録研修を受け、2002年に養育家庭として登録をさせて頂きました。今思うと、自分でも責任感のない出発だと思っております。

登録後、何件か引き受けの問い合わせがあったのですが、義父の認知症もあり、断らざるを得ず、とても心苦しく思っていました。

家族でリビングにいたある時、また連絡があり、2歳の女の子を短期で預かってもらえないかと言われました。私としてもできれば小さい子を希望していたので、家族に相談をしたところ、いいのではないかという話になり、即連絡してOKしました。

それからは1度会い、一週間後に引き受け、短期間でとても可愛い女の子との生活が始まりました。地域の人々にも可愛がられ、地域交流になっていたと思います。

その女の子をきっかけに私の養育家庭という活動が始まりました。養育里親というと、長期で預かるイメージがあると思いますが、児童養護施設が空くまでの短期間や、ひとり親家庭の保護者が入院した時の一時保護などもあります。今まで、一時保護、レスパイトなど、15人ほどのお子さんをお預かりしてきました。

その中に中学3年生の2月からお預かりした女の子がいました。その子のことをお話しさせて頂きたいと思います。この件は本人にも相談をして、許可をもらっています。

彼女は隣の町に住んでいて、地域の中学校に通いながら高校を目指したいという子でした。お話を頂いたときは、受験を控えてとても大変だとは思いつつ、希望校もしっかりしていたので、引き受ける気持ちになったのだと思います。措置の理由は実母の心の病気から、その子への過干渉が酷くなったことでした。一步も外に出してもらえない状

況で、学校にも行けず、彼女自身はとても辛い生活をずっと送っていたのだと思います。実母が落ち着き、帰れるまでという曖昧な期間でしたが、養育家庭へ措置となりました。

初めて会ったときは、髪の毛が腰位まであり、目の前も全部おおって、貞子のような感じでした。この子、本当に大丈夫だろうかと不安になったことを覚えています。一週間後、少ない荷物を両手に持って家に来ました。話していると、やはりちゃんと目標があり、私も塾の送迎やお弁当作りなど協力して、一緒に頑張ることができました。希望する高校に受かったときは家族みんなとても喜びました。

実家との交流、部活、友人関係ととても楽しく高校生活を過ごしていましたが、高校2年の夏、あることで心が不安定になり、彼女は養護教諭に相談しました。養護教諭はネットで探した近くの心療内科を彼女に紹介し、そこに通院したところ、精神薬が処方されました。養護教諭も心療内科の医師も通院の事を私達に知らせず、服薬が原因で昼夜が逆転し、1週間以上、戸を開けることがなくなっていました。児相にかかわってもらい話し合いを重ねましたが、措置解除となりました。彼女はその後一時保護所、グループホームへと措置変更されました。

解除となった後、高校の卒業式に参加してほしいと連絡があり、卒業式にも参加しました。それから連絡が途絶えることなく、彼氏を連れてきたり、娘の結婚式に参加したり、何かある度に連絡が来ています。先週も2年間派遣で勤めていた会社で正社員になったと連絡がありました。現在、髪の毛はショートボブにして、都内の葬儀屋さんでも楽しそうに働いています。彼女とは今後も良い関係が続いていくと思います。

これはほんの一部の体験ですが、皆事情も背景も全部違います。何が良い、悪いということも経験をしてみないと、今の私にはわかりません。

現在は、中学2年生の子をお預かりして半年になります。今日も遊びに出かけていて、とても楽しそうに行くので、笑顔でいつも送り出しています。地域や家に慣れるまで、まだまだ時間はかかると思いますが、親類、ご近所の方々、行政、学校、養育家庭の仲間とあらゆる面で皆さんからのサポートを沢山してもらっております。色々のご協力をお願いしていますが、私も心から感謝しております。ありがとうございます。

話は変わりますが、先日町田市が児童虐待防止と早期発見の為、管轄する警察との情報提供連携協定を結んだということがニュースになっておりました。悲惨な事件が少しでもなくなることを心から願います。児童相談所も一時保護所や児童養護施設、引受先が多くあると良いのですが、どこもいつも満杯という話を聞きます。地域の子どもは地域で育てる。養育家庭を増やし、多様に対処できるよう受け皿を用意すること、それが児童の命を守ることに繋がると 생각합니다。一人でも受け入れてみようかなと思う気持ちがありましたら、ぜひ知ってもらうことから始めてください。「児童相談所で小さい子を受け入れてくれるのだから」という話だけでもいいと思います。知ってもらうこと、できれば私たちの仲間になってもらえませんか。

以上、私の体験発表を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

1 1 社会的養護経験者としての自分

【里子】

八王子市のファミリーホームで育ち、その里親さんと2年前に養子縁組をして、現在も含めて、17年くらい、里親宅で生活しています。なかなか大学を卒業できずに、いまだに大学に6年間通っています。

私は生まれてすぐに乳児院に入り、その後、幼児専門の児童養護施設と普通の児童養護施設を2年ずつ転々として、小学校1年生の夏に今の里親Sさんの元へ来ました。私には血のつながった実の兄と姉がいて、私が生まれた時点で2人とも社会的養護に出ていました。元々兄がS家に措置されていて、兄弟が別れて生活するのは可哀想だということで、姉と共にS家に引き取られました。

S家では現在、措置児が5人いて、父と母、私の8人で生活をしています。障害を持っている子が多いので、私は大学に通いながらファミリーホームのスタッフとして母の手伝いをし、夜は塾の講師のアルバイトをしています。今日も午前中下の子たちを連れてファミレスでの昼食の後、駅にある室内遊び場で遊ばせてからここへ来ました。

私が委託された当時はとてもたくさんの子がいて、4学年に5人、皆で連なって小学校に行っていたという時期がありました。周りの人から見ると、5人兄妹というのがまず珍しいし、年子で、親とも似ておらず、性格も似ていない。家族と全然似ていないということで、5～6年生の頃にいじめを受けたこともありました。

今となってはそんなことあったなと思うのですが、漫画のように校舎裏で目の付きにくい部位に暴力を受けたり、「カンニングさせてくれないと殴るぞ。」等と脅されたりしていました。自分自身はいじめを受けているという自覚はありませんでしたが、気持ちのいいものではなく、ただ耐えていました。誰にも言えずに一人で抱え込んでいたのですが、見かねた母が学校に掛け合い、解決への努力をしてくれました。それでもいじめはなくなることはなく、2年間はいじめを受けながら学校に通うという生活でした。学校を休むという発想はなく、学校を休んでひきこもるといったようなこともありませんでした。

私は友達付き合いが上手くできなくて、広く浅い人付き合いの関係をやることを当時から身につけていました。一つのグループでトラブルがあったら別のグループに移って、またダメだったら別のグループに行ったり、また戻ったりとずっと転々としていたので、誰かとずっと仲良くするということができませんでした。

そんな生活をずっと続けたくないという思いがあり、相談して中学受験をさせてもらい、私立の中学校に通うことになりました。小学校の間は通称名と言って里親の名字でSとして学校に通っていましたが、中学校からは自分の事を知る人は誰もいない環境なので気持ちを変えて本名のYで養子縁組をした大学の途中まで通いました。

中学校は自分の事を知る人がいない上に少し離れた学校だったので、なんとかできるかなと思っていたのですが身についた「広く浅い付き合い」という習慣はなかなか抜け

られるものではなく、中学・高校とずっとそういう生活を続けていました。クラスや学年の皆と話をし誰とでも仲良くはなるけども、かといって休みの日にどこかに遊びに行ったりということは、全くできませんでした。

私自身、本名に戻したことで戸惑うことがたくさんありました。正式な書類を出す時に、自分の氏名はYで、保護者氏名はS、印もSという書類を後ろの席から前に回して提出することがあり、そういうときに次の人が自分の書類を見て「なんで名前が違うんだろう。」と思われぬか、とか名前に関してはすごく気にしていました。上に重ねないで真ん中や下にこそっと入れたり、先生に手渡しにしてもらうとか配慮をしてもらいながら、生活をしていました。

そういったことを気にしている私を見かねた母から高校2年生くらいの時に、「里子であることは何も悪くない。誰から生まれたかよりも、この先どう生きるかが大事だ。」という話をされました。ずっと「里子であることを隠し通さなければいけない、周りから普通の子として見られたい。」という思いがあって生活をしていましたが、その言葉をきっかけに「自分は里子であっていいんだ。隠す必要はないんだ。」とだんだん思うようになりました。言われた瞬間からではないですが、少しずつ自分の生い立ちに関して、これはこれでよかったんだ、と思えるようになっていきました。あの言葉がなければ今でも自分が社会的養護出身であるという事をひたすら隠し続けて、いわゆる普通の子、一般家庭の子と同じように見られたいと思い続けていたと思います。

今では自分が社会的養護出身だという事を声に出しています。自分はこういう経験をしてきた、こういった経験をしている子たちがまだたくさんいるという事を広く色々な人に知ってもらいたいと思い、今日のような発表をさせてもらったり、インターナショナル・フォスターケア・アライアンスという米国のNPO活動にも参加しています。これは施設や里親家庭出身の若者達が集まって自ら声を出して制度を変えていく活動です。2年位前に要望書を厚生労働省に提出し、子どもの権利に関する現状や足りていないものを話し合っまとめ、国連へのカウンターレポートとして提出するという事もしてきました。

そういった活動を通して、自分自身も生い立ちをもっと前向きに捉えられるようになり、社会的養護出身の仲間と一緒に集まって、「自分たちは一人じゃない、仲間がいる。同じような経験をしている仲間がこんなにたくさんいて、不安かもしれないけれども、大丈夫だよ。」という事を共有して、制度で足りていないところは、声に出していかないといけないと活動しています。

当面の目標としては、きちんと卒業するということからなんですけれども、社会的養護出身の一人として、また、養子縁組をした者として、自分の生い立ちを無駄にせずに、何かしら活かしていけるようこれからも、声に出していきたいと思っています。

本日は短い時間でしたが、これで終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

12 出会えてよかった

【里子】

私は最初2歳まで乳児院で育ちました。乳児院の記憶としては、床屋の時に外出できるのがとても嬉しくて、床屋の、髪にぼんぼんをつけてくれる白い粉の匂いが懐かしくてこの匂いを嗅ぐと一気に昔に戻るみたいな感じです。

3歳頃に移った施設では、見るものすべてが初めてだったので、金魚や蛙を見た時は衝撃的で蛙などよく捕まえました。

4歳頃から、里親さんと何回か交流しました。「普通に優しい人達なんだな」という感じで一緒に出かけ、遊んで帰ってきて、が続きました。施設の人と「よろしくお願ひします」という言葉を、里親さんに会うたびに何回も練習しました。最終的には施設の人から「この人が君のお父さんとお母さんになる人だよ」と言われました。自分としては理解していなくてその時の気持ちはちょっとわからないのですが、多分嬉しかったのかなと思います。

その後「“よろしくお願ひします”という言葉を練習してきたのだから、ここで言いなよ」と言われましたが、自分は大事なところで「おめでとございます」と言ってしまった。でも里親さんはすごく笑顔で「ちゃんと礼儀ができる子なんだね」と言ってくれて。今でもそれを里親さんは覚えていて「別に悪い言葉ではないから全然いいよ」と。そして4歳半のときに里親さんの家に来ました。

里親さんの家でも色々なものが初めてで、ベッドは、本当にトランポリンみたいで、「もう寝るよ」と言われても飛び跳ねるのが楽しくて結構つき合わせてしまったのも覚えています。庭で金魚を一緒に見たことも覚えています。

年長の前に幼稚園に通うことになり「また乳児院みたいな所かな」というのがあったように思いますが里母さんが迎えに来てくれるのは初めての経験でした。

小学校に上がり、一番思ったのが皆に比べ言葉がうまく話せなくて自分は頑張っているんですが、正直、里父さんは最初全く理解していなくて里母さんが一から、里父さんも優しく教えてくれ、話せるようになりました。

小学4年生頃から何か周りの子と違うと気づき、最初、里親さんの名字になり、その時、本名の賞状が部屋に飾ってあったのです。これは誰だろうと思って、里母さんに「この〇は一緒の名前だよ。これは誰？」と聞くと「これは君だよ。〇君だよ」と言われて、「俺、名字2つあるの」と。最初、里母さんは濁して「そうだね」と言って。ちょっと特別な子なのだなど、最初は嬉しかったのだと思います。

でも、小学校5年生頃に里母さんに癌が見つかり結構末期の状態、すぐに入院が必要と言われました。中学になり、お父さんから真実告知するというのを「まだわからないかもしれないけれども一応言っておくね」という感じで言われ、「お父さんとお母さんは本当の父親、母親ではないのだよ」「別において、本名は〇〇なんだよ」と言われたのですが、「小4でもそんなことを言っていたな」位な感じで軽く受けとめていました。

中学2年生でお母さんを亡くしまして、制度上では里父一人で俺を育てられないのを知って、でも、お父さんが頑張って児童相談所の人に頼んでくれました。お父さんとの絆も、俺が何を考えているかもお父さんがわかるようになっていました。お父さんから「ここまで一緒に育ってきたのだから、最後まで一緒にいたい」と言われ「〇、お前は どう思う」と聞かれ俺はもうとっさに「当たり前でしょう。俺も一緒にいたい」と言ったら、急にお父さんは泣き始めて「なら、よかった」と言って。今、まだお父さんと一緒に暮らせているのです。

高校生になる時にお父さんに「本名に変えるか」「18歳になったら、お前は本名で生きないといけないんだよ」と言われましたが、「まだ高校生は里親姓でいきたい」と頼んだら高校生まではいいかと。高校は里親姓でいき、同じ高校の同級生に里子の親友がいたのです。一緒に勉強して、親友の里親さんも知っていて相談を受けてくれたり、遊びに連れて行ってってくれて。

小・中の頃は、帰宅が遅れると「約束を守らないのは、社会に出たらだめだよ」と言われたり、嘘をつくと本当によく怒られました。お父さんとの絆は深まりましたが、お父さんは意外と短気ですぐにがと来る所もあり、和解させてくれるのがお母さんだったから、どちらかというとお母さんの方が好きだったのです。でも、止める人がもういなくなってしまう。ただお父さんが「がと行かないようにするから、お父さんについてきてくれよ」と言われた時は、別にがと来てもついていくけどなと思っていました。今はお父さんも大好きなのです。

中学2年生に戻りますが母親が亡くなった時は本当にショックでした。その時には、本当のお母さんではないよとお父さんに言われたのですけどね。俺とお母さんが喧嘩して帰宅したお父さんにも火がつくことがありましたが、仲がよい時は、お父さんが帰宅する頃「じゃあ、お父さんをおどかすか」と言って隠れて、お父さんを驚かせて仲よく過ごすことがありました。

専門学校の奨学金は、お父さんから、借りなくていいと言われました。でも、俺が「借りるよ」と言ったら「お前は他の子供たちから比べると、多分すごく苦勞をしてきたと思う」と。自分はおちゃらけた性格で、周りには辛いところを見せなかったのです。でも、お母さんが癌になって入院したと聞いた時も結構、夜、泣きましたし代ってあげたいなと思った時も何度かあって、それで反抗期もなくて、お父さんに迷惑はかけられないと思って。でも、お父さんは「お前は人一倍努力しているのだから、お金のことは苦勞させたくないからお父さんが学費とかは払ってあげるよ」と言ってくれたのが一番嬉しくて、お父さんに迷惑をかけないようにしていきたいなと思っています。いつか恩返しもしたいなと思っています。

最後に、里親さんのところに来て、お父さん、お母さんに会えて、周りの人たちもみんな優しい人たちだったので本当によかったなと思います。

1 3 一時保護委託と長期委託

【里母】

里親を始めてちょうど十年になりました。その前は里親制度自体知りませんでした。体験発表を聞きに行き、制度の説明や里親が足りないという話を聞き「里親をやろう」と思いました。我が家は私たち夫婦、私の母、息子三人の六人家族でした。帰宅後すぐに相談しました。反対する人はいませんでした。三男は大学三年生でした。卒論で里親をテーマにしている先輩がいて「やろう」と言ってくれました。私たち夫婦は若くないし実子が三人とも男だったので、里子は小学生以上の男の子を希望しました。

里親認定されると、すぐに里子の依頼がありました。申請した時には母は健康でしたが、認定後すぐに体調を崩してしまい初めての依頼は断るしかありませんでした。数か月後再度依頼がありました。二回続けて断れないと思い引き受けました。母親のネグレクトで保護された高三の不登校の男子でした。施設が空くまでの間の一時保護委託でした。数日かもしれないし、数週間になるかもしれないと言われました。いつまでと期間がわからないことは私にとっても里子にとっても辛いことでした。特に里子は保護されて不安なところに、さらにまた別の所に移されるという二重の辛さがありました。

うちの三人の息子は、小さいころ遊ぶのに広い部屋がいいと言い子どもたちの個室はありません。里子が来てもその部屋を一緒に使いました。でも、里子は来た次の日にその部屋から布団を抱えて地下の広い大人のプレイルームに立てこもってしまいました。ピアノを習っている私にとってはその間ピアノを弾きにいきませんでした。地下室には本もたくさんあります。彼はたくさんの本を読んだそうです。その部屋から一向に出ようとしませんでした。無理強いはしませんでした。そうこうしているうちに、母親の虐待による中一の里子の長期委託依頼がありました。高三の里子は一時保護委託なので、中一の里子も引き受けました。ちょうどそのタイミングで上の里子も地下室から子ども部屋に戻ることができました。学校から出席日数が足りなくて今年度は卒業できないと言われました。でも、高校に行っていないと里親の家に居られないという事で、また高校に通い始めました。

施設が空く見通しがいいまま、時間が過ぎていきました。一般に長期委託は、施設で基本的な生活習慣を身につけてからという決まりだそうです。でもその子は我が家での生活が長引いたので基本的な生活習慣は身についたとみなし、福祉司の方の並々ならぬご尽力で長期委託に変更になりました。

里子は大学進学を目指していました。検定で大学受験資格は取っていました。私たちは、受験をしても翌年受かる保証はないし不合格の場合は最終学歴が高校中退になってしまうことを心配して、留年し高校を卒業することを勧めました。でも自立援助支援の施設に移っていきました。一年後大学に合格したと言って我が家にやってきました。希望校ではないので、その大学に入学するか迷っていると話していました。私たちは、今後さらに一年勉強しても希望校に受かるとは限らないので、その学校に行くことを勧め

ました。その後一年間音沙汰なしでした。家に来づらかったそうです。なんと二浪して希望の大学に合格しました。

家に居る時にどこにも旅行に連れて行けなかったのが、高校生になっている下の里子も一緒に、次男が住んでいる仙台にみんなで旅行に行きました。二年前、私が長年携わっているボランティアで藍綬褒章をいただいた時には、三人の実子よりも彼が一番喜んでくれました。夫が「みんなで酒でも飲もう」と言って二人の里子も来て祝ってくれました。彼はいまでは立派な社会人になり、得意な英語を活かして海外で活躍しています。

今までに、一時保護委託で三人の小学生と五人の高校生を受け入れました。最近大きな児童の一時保護委託が増えております。里親の数を増やすに当たり一時保護委託のみを引き受ける方を募る必要も感じています。一時保護委託でも都合の悪いときは断ることが出来ます。個人情報保護なのでしょうか、受け入れる前の里子の状況があまり知らされません。里子の養育は児相と里親との連携によって成り立つものだと思います。委託期間の長短に係わらず、受け入れた児童に対してはベストを尽くそうと思っています。

最後に、長期で預かっていた里子の話しをしたいと思います。委託は中学校一年からで、本当にかわいがっていた里子がいました。高三の十月末、あとちょっとで卒業というところで、私に反発して、違う里親の家に出て行ってしまいました。私は悲しくて悲しくて何でこんなことになってしまったのだろうと思って、毎日毎日泣いて暮らしました。

うちは私と息子たちがピアノを習っていました。三男のレッスンについて行った里子は、「僕もピアノを習いたい」と言ったので習わせました。発表会では私と息子と里子の三人がそれぞれソロ曲を弾いた以外に、三人で六手連弾もしました。普段は三人で練習する時間がなくバラバラでしたが、当日は三人の呼吸がピタリと合いました。CDやDVDは三枚ずついただきました。しかし、その子がうちを出ていくときに、大きなゴミ袋を指して「これを全部捨ててください。」と言いました。ゴミ袋の一番上にピアノの発表会のCD、DVDが置いてあったのです。それでまたまた悲しくて泣いてしまいました。捨てられなくて、こっそりと拾ってきて大切に持っていたのです。

今年の夏、多摩川の花火大会で、九十五歳のお婆の家にみんなで集まるときに、その里子も誘いました。誘うときに電話でピアノのCDの話をしたのです。「これを捨ててくれと一番上に置いてあったけれども、私は悲しくて悲しくて捨てられないで持っていた。その時渡したい。」と伝えました。すると「僕も少しは成長したので、それはいただきたいです。」と言ってくれました。何か胸のつかえがスーっとおりて、花火大会当日に渡すと「家に帰ったらすぐに聴きます。」と言ってくれました。

里親をやっているというのは大変なこともありますけれども、本当にこんな里親冥利に尽きることはないなという、すばらしい経験もたくさんしています。長期委託、短期委託、一時保護委託、いろいろありますけれども、ハードルを上げず自分ができる範囲で、今後とも里親認定を更新している限り協力していこうと思います。

14 「普通」の生活で取り戻した自信と笑顔

【里子】

私は、叔父と叔母の家で生活していましたが、高校1年生の6月から里親さん宅に委託されました。私には児童養護施設に入所している双子の姉がいて、当時私も同じ児童養護施設に入る予定だったのですが、既にこの施設にクラスメイトの子が入所していたため、児童相談所の判断により里親さん宅に行くことになりました。

委託前日までは最後に姉に会えると思っていたのですが、姉は学校から直接施設に行き児相には戻らないことを聞かされ不安で20分くらい泣き続けた後、落ち着いてから里親さん宅に行くことになりました。里親さん宅に行くまでの車中では、私がいとこの家にいる時にいろいろなことをされてきたので、同じようなことを里親さん宅でされるのではないかなど不安な気持ちで向かっていました。

里親さん宅に到着し、少し里親さんとお話しをした後、児童相談所の職員が帰られました。里親さん宅には、既に年中の里子さん一人いて、お互いに人見知りだったので最初は仲良くなれるかすごく不安だったのですが、少しずつ仲良くなることができました。しかしながら、一緒に生活をしていくうちに仲よくなる過程が少し間違っていた可能性もあり、お互いの距離が縮まり過ぎて少し言い合いになったこともありました。それでもとても楽しい3年間を過ごすことができました。

少し昔の話になりますが、私がいとこの家や自分の家にいた時、今思い返せば社会的には虐待をされていたのではないかと思うようになりました。というのは今、私は保育の大学に入学し保育の勉強をしているのですが、保育の教科書には虐待、育児放棄、ネグレクトという言葉が載っています。私が小さい頃はそれらの行為がどこの家庭でも当たり前であると思って育ってきたのですが里親さんの家で生活をするようになり、今は大学で保育を学ぶことによって、それは当たり前のことではなく社会的には虐待であり普通の家庭だったらそういう愛情の注がれ方はされないというのを理解しました。このことは自分の過去と重なる部分もあるので、大学での授業が辛い時もありますが、今は一生懸命頑張って通っています。

私が里親さんの家に初めて来たのが高校1年生の6月18日で、自分の誕生日は6月11日でした。自分の誕生日が過ぎていたこともあり里親さんには祝ってもらえない、来年は祝ってもらえるといいなと思っていたところ、ある日学校から帰宅したら「誕生日おめでとう」と書いてあるケーキを里親さんが用意してくれていました。今までは、自分の家にいた時もいとこの家にお世話になっている時も双子の姉も一緒に誕生日のため、自分一人のために祝ってもらうことが初めてで、すごく嬉しくて泣いたのを覚えています。

そして、高校卒業までの3年間、里親さん宅でとても楽しく過ごすことができ、いろんな経験をさせていただきました。ちょっとした息抜きに遠出したり、家族で御飯を食べに行ったりしました。一般家庭では、このようなことは当たり前かもしれませんが私

はあまり連れていってもらった思い出がなくて、里親さん宅でその思い出が増えて、自分も心が豊かになったような気がします。高校の時に進学先を決める際、最初は指定校で行けるところを里親さんと一緒に探しました。私は将来、声優になりたいという夢があったのですが、高校卒業後には自立しなければならないため、経済面がすごく大事で大変であるということを里親さんに教えていただきました。それから自分なりにネットなどでいろいろ調べて声優になれなかった場合、自分は将来何をしたいのかと考えた時に、児童養護施設の職員になって、自分が経験してきた過去や「あなた1人じゃないよ」「私みたいに里親さんの家で育ててもらって大きくなった子もいるんだよ」ということを子どもたちに少しでも伝えていけたらと思います。また、里親さんのように子どもたちの将来を一緒に考えていけるような存在になりたいという思いもあり、保育の大学に通っています。

私は、子供の頃に人に認められたり、褒められたりすることがほとんどなくて、自己肯定感が低かったのですが里親さん宅ではいろんなことを褒めてもらったり、認めてもらうことができ、本当に嬉しかったです。今まではテストでいい点数が取れても、「それよりも上を目指せ」と言われてきたので、里親さんに「いい点数がとれたよ」と見せた時にたくさん褒めてもらって自信ができました。里親さん宅に委託される前の中学生の時、生徒会に立候補しようと思ったのですが自分に自信がなかったためできませんでした。しかしながら、里親さん宅に行った後、たくさん褒めてもらったり認めてもらったりして自分に自信がつき高校の生徒会で頑張ろうと決意したのもこの時でした。

私が生徒会に入って思った事は、たくさんの人に顔や名前を覚えてもらえるようになったことが嬉しかったです。高校入学後の4月はまだいとこの家にお世話になっていたので最初は静かで大人しく、勉強を頑張っているような子に見られるように学校生活を送っていたのですが大人しい子だったら生徒会で学校をまとめていく立場になった時に駄目だと思い、みんなに少しでも明るく接しようと努力をしました。身近に明るい人っているのかなと思った時に、いつも明るく笑顔で他愛もない話をしてきてくれるのが里親さんだと思いました。私も里親さんのようにいつでも笑顔でいられように頑張りました。少しずつ笑顔に慣れてくると明るく演じる方が人間関係が上手くいき生活しやすいかもしれないと思い始めました。クラスの友人と笑顔で明るく接していく中で、文化祭の時に自分から率先してクラスのグループリーダーになったり、生徒会の会長になったりといろいろな経験をさせていただきました。

私は、実の母親との思い出があまりなかったのですがそれを繋げていくように里親さんとの思い出ができ、自分が大切に育ててもらっているということを実感できるようになりました。当たり前のことができなかった私も里親さんにいろんなことを教えていただき、少しずつ成長しながら今では自立した生活を送っています。こんな私にとっても、里親制度はすごくいい制度だなと感じています。ありがとうございました。

15 家に帰ると用意されているチーズケーキ

【元里子】

私は高校3年生の10月に養育家庭に委託されました。養育家庭で過ごすのは、原則高校卒業もしくは18歳なので、とても遅いタイミングで短期間の委託でした。

私は家族とうまくいかず、家の中は辛いというのが当たり前だと思ってきました。しかし児童相談所に相談すると施設に行かなければならないという固定概念があり、絶対に行きたくないという気持ちが強かったです。そんな中、高校生の夏に家に帰りたくなくてお友達の家を転々としている時期がありました。そのころ、ボランティアで通っていた児童館の先生方に「生きるための術のレパートリーがないのはしょうがないから」ということで、児童相談所の方と一緒にお話をする機会を設けていただきました。もし自宅に帰された場合、「児童相談所にチクったな」と、父からより一層威圧をかけられるのではないかと、とても怖かったです。ところが、担当の職員さんは、とても聞き上手で、私の話す恐怖や不満、今後の生活の理想など、うなずきながら聞いてくれました。そして、2カ月間の中で2カ所の施設で過ごしました。

1カ所目は自立支援の施設、門限が9時、携帯は常にいじれず、何時に帰ってくるか申告しなければならず、私にとってはとても窮屈な決まりだらけの場所でした。ルールを守ることができず、集団生活不可とみなされその施設を出ることになりました。2カ所目はシェルターです。誰とも連絡を取れず、外出もできず、刑務所とはきつとこんなところなのだろうなと感じさせるような暮らしでした。しかし、その後にシェルターの意味を知りました。私の安全を守ってくれるところで職員さんは私の生活が楽しくなるようにといろいろ工夫をしてくださいました。

ある日、児童相談所の方に呼び出されて「里親さんと面談をします」と言われました。施設での決まりが守れない私のために里親さんを探してくれていたのだとなぜか「里親さん」という言葉を聞いたときに、とても前向きに捉えることができました。

そして、縁あって里親さんとの生活が始まりました。里親さんのお家には猫が3匹いて、とてもきれいでこんなすてきなところに住めるのかと単純に思いました。これからここで生活ができるのだという開放感に満ちあふれました。はじめはこの人たちと家族になるのだという感覚より、居候をさせていただくという感覚に近かったです。

お父さんもお母さんもとても真面目な方で曲がったことが大嫌いで、一緒に過ごしていくうちにこれが理想の両親なのだと思うようになりました。委託期間中に、里親さんたちと大きくぶつかることはありませんでした。晩御飯のときは何が食べたいかを聞いてくれたり、週末にはドライブに出かけたり、私が実の家族と生活していたときには経験できなかった楽しいことをさせてくれました。

唯一の約束事は、出かけるときや遅くなるときは必ず連絡することでしたが当時の私はそれすらもおっくうで、里親さんたちはきつと優しいから怒らないだろうと思って連絡をせずに遊びに行くことは多々ありました。ある日、アルバイトの後、連絡をすると

いう約束を守らず夜中に遊んでいたことがありました。翌朝、お母さんから「無事かどうかわからないから連絡だけはしてほしい、とても心配した」と叱られました。ただ、その叱り方はとても優しく、諭すような、決して怒鳴るようなことはしませんでした。出ていけなどとは言われず「とても心配した」と言われ私はすごく驚きました。そのとき、私はこの人たちのことを裏切りたくない、悲しませたくないと思いました。私はこのときに、里親さんの厳しさは本当に私のためにあるのだということを強く心から感じられました。その後も叱られ心配をかけましたが「失敗がだめなのではなく、次のためにその失敗から学びなさい」と言い、いつも私を見守ってくれました。

その日を境に、しっかりと連絡をして高校生らしい生活をするようになりました。家族と食卓を囲み、その日起きた学校やバイトでの楽しかったことを「うんうん」とうなずいて聞いてくれたり、部活動の発表にも見に来てくれたり、バイト先の新しい居酒屋に食べに来てくれたりしました。就職、高校の卒業が決まったときも心から喜んでくれて、お祝いのプレゼントにアクセサリをくれたり、私の大好きなチーズケーキを買ってきてくれたり短い間でしたが愛されていたと思います。それでも「家族」と言われると、私からすると少し感覚が違いますが、周りの人に親の話を聞かれるときは、いつも里親さんの話をしています。ほかの人に胸を張って話せる私の両親を自慢したいという気持ちが強いです。半年もたたずに委託が終わり、6年が過ぎた今でも交流があり、定期的にお家に遊びに行っています。私が仕事でうまくいかないとき、転職するとき、彼氏ができたときなど、立派な大人だから自分で決めたことを信じなさいと、いつも背中を押してくれます。ご飯のときには相変わらず私の大好きなチーズケーキを用意してくれます。

悲しかったこと、嫌だったことは、頭を抱えてひねり出さない限り出てきません。唯一あるとすれば、部屋の掃除や洗濯は自分で全部やりなさいということでした。お父さんはユーモアあふれる優しい方で、お母さんは頭がよく、いろいろな知識を私に教えてくださりました。そんな里親さんが短期間で、私を立派な人間に成長させてくれました。今までは、私は意見を否定されると耳を塞いでいましたがお二人の意見は素直に聞けます。私のだめなところを正してくれる里親さんの言葉はとても真っすぐで心に刺さります。

今、社会に出て6年目ですが、責任を持って毎日仕事ができるのは、二人のおかげだと思っております。委託期間よりも、普通にかかわっている時間のほうが長く、里親さんは児童相談所を介してではなく、私一人の人間としてかかわり続けてくださっています。二人が短期間でも私の「親」になるという選択をしてくれたことにとても感謝しています。「いつでも帰っておいで」と、おいしい御飯を用意して待ってくれる実家が、私にはできました。お二人が私のことを自慢の娘だといろいろなところで言うような、そんな子供でいられるように、これからも真っすぐ頑張っていきたいと思えます。

16 太陽のように明るい、いとoshii存在

【里母】

現在4歳になる、元気でかわいい女の子を2歳からお預かりしています。里親としては2年余りのささやかな経験ですが、里親として生活するというのは、これほど楽しくてやりがいのある生活はほかにはないと感謝と同時に、これほど大変なことはほかにはないとも思っています。

私が初めて養育体験発表会に参加したのは、十数年以上前です。そのとき登壇された里親さんは、とても素敵なお方でしたがなかなか大変な内容を非常に明るく軽やかに話していて、この方はなぜこんな大変なことをとても明るく話せるのだろうと衝撃を受けました。今考えれば、そんなに大変な状況でもないと思いますが当時は私のような未熟者に里親は務まらないと思いました。その後も里親登録を悩みながら10年以上経ってしまいました。最終的には夫の「いろいろ悩んでいても、始めてみないと始まらないよね」との言葉に後押しされ里親登録をしました。

その後、当時1歳半の女の子をご紹介頂き乳児院を訪ねました。遊ぶ様子やしぐさが胸の中が温くなるほどかわいい女の子でした。それから、週に3回ぐらいのペースで乳児院に通い始めたのですが私が50回行っても60回行っても毎回大泣き。私は会えるのが楽しみでしたが、あまりの大泣きにこの先どうなるのか不安でした。半年後、やや見切り発車的な感じで受託し毎日ものすごく楽しくて、とにかく忙しい毎日が始まりました。

私達夫婦はクリスチャンです。教会に年齢の近いお子さんが10人程おり、すぐに仲良くなりました。一緒に公園や児童館に日参し、転げ回り、泥んこになりながら遊んだり、けんかをして、皆で成長しています。

我が家の状況について少しお話しすると、受託と同時に思いがけず同居する両親が共に末期がんと診断されダブル介護が始まりました。子供好きな両親にすぐに慣れました。母を紹介した途端、まるで昔から知っていたかのように母の膝の上に座っていました。父も可愛がっていました。私に叱られると父の部屋に行き「お母さんにないしょの秘密」と言いながら、二人で並んでお菓子を食べていました。普通は病状が進むと家の中は暗くなるかと思いますが、太陽のように明るい子供が家の中心の毎日ですから、いつも楽しくて、笑いが絶えませんでした。子供が母の医療用ウイッグをかぶって、歌ったり踊ったり、お医者さんのまねをしたり和ませてくれました。里子の受託は、両親への最後の親孝行だったと思います。家の中を明るくしてくれた子供に本当に感謝しています。介護中は子供なりに察知して我慢していたのか、半年違いで両親を自宅で看取り、介護が終わったと同時にパワフルにわがまま全開です。

大変なこともあります。生活のとにかく全てのことが隅から隅まで全部大変です。一番大変だったのは一瞬も目を離せないことです。一瞬、一秒ぐらい目を離すと、第一に危険なことをしている。2番目に、ものを壊している。3番目に、何かをぶちまけている。またはミックスです。みんないつトイレに行っているのでしょうか。寝かしつけも大変で、

夕方ぐらいからぐずり始め、就寝前は泣き叫ぶ、泣き叫ぶ、そして泣き叫ぶ。絶叫が2、3時間続く「絶叫生活」でした。1年ぐらい夫が泣いている子供を抱っこして近所を散歩してくれました。私も子供もへとへとでした。しかし、一番大変なのはこの子です。乳児院で大好きな先生たちから手厚く細やかにケアを受けていたのに、一人離されてたった一人で新しい環境に飛び込んだのです。そのかわいい寝顔を見ていとおしいと思っていました。主に泣き叫んで暴れるというのがベースなのですが子供が思いつく限りの困らせ事もします。「どんなに大変でも、一番大変なのは半年。どんなに長くても1年で終わるよ」と皆さん励ましてくれましたが年々パワーアップしています。愛情を持って受けとめることが大切だと聞いていても私の愛情が足りないのかな対応を間違えたかなとか、そもそも子育て向いてないのかもと大分へこんでしまうこともあります。でも、3年かけてすごく発散したので、来年あたりととてもおとなしく落ちついているのかもしれませんが。これは期待しています。

子供を中心に、いろいろな支援の輪があります。まずは里親の方達です。先輩里親さんから本当に色々な助けを頂き、子供が同世代の里親さんたちの頑張りにすごく励まされています。加えて私の場合は、教会の方たちにとっても支えられています。みんなから「全然大丈夫だよ、のびのびいい子だよ」と、すごく可愛がられ、愛情を注いでもらっています。子供は少し発達障害の傾向があるので、療育の先生方、子ども家庭支援センターや児童相談所の職員の方から専門的なサポートもあります。また、幼稚園の先生方や、近所の方たちとか、すごく協力的で良い方たちに囲まれています。子供は、常に輪の中心にいる太陽みたいな存在で、多くの人たちに支えられて、健やかに育っています。

最後に、一番私たちを支えてくれている一番サポートしてくれているのは里子本人です。養育の困難さを癒やしてサポートしているのが本人というのはちょっと矛盾した言い方に聞こえるかもしれませんが。でも、本当にこの子にその笑顔に支えられています。いつも幼稚園から帰ってくると、空っぽになったお弁当箱を得意げに見せて「すごいおいしかったあ」と笑顔で言います。園の行事で私の顔を見つけると、すごく嬉しそうな笑顔になります。私はハラハラですが、最近補助なし自転車に乗れるようになり本人は得意で仕方がなく、得意げな笑顔で自転車に乗っていたり「見て、見て見て、ねえ見て見て」とか「縄跳び見て、縄跳び見て見て見て」とすごく嬉しそうな笑顔で言う。「お母さんだあいすき」、「100倍好き」とか言ってにかーっと笑う。その笑顔に支えられています。笑顔だけでなく泣きじゃくりながらしがみついてくる時の泣き顔とか真っ赤な顔で文句を言いながら怒っているとき、全部ひっくるめて私を支えてくれているのはこの子です。存在そのものがいとおしいです。

特別なことは何もない、毎日です。日常的の繰り返しも、毎日がイベントみたいに特別な楽しさに満ちています。小さな幸せが重なり、私たちの家庭の大きな幸せになっています。そんな楽しい毎日を送っていることを本当にありがたく思っています。

17 支えを必要としている子供とともに生きる

【里母】

今、私の家族は、夫と里子の2歳の女の子と、あと犬が2匹です。彼女を迎えてまだ1年半の新米里親です。私が里親になることを考えたきっかけは、3年前たまたま見たドキュメンタリー番組で、虐待や経済的な事情で親と一緒に暮らせない子供たちがどんどん増えていることを知り、夫婦で「こういう子をちょっとでも助けてあげたいよね。」と話をしたのがきっかけです。その後、調べていくと養育家庭という制度のことを知りました。これまで気の合う夫婦二人の生活が楽しかったのですが「今、愛情を求めている子供たちの支えになりたい。里親という形で社会貢献をしたい。」と強く思うようになりました。お互い仕事や趣味の食べ歩きなどもすごく楽しかったので、子供をつくるということは考えていませんでした。でも、二人だけの生活が人生ではなくて、支えを必要としている子供たちのために生きてみたいという二人の夢が生まれました。

私たちは早速、地域の児童相談所に電話をして訪問し具体的な申請方法を聞き、里親登録をスタートしました。最初にハードルを感じたのは、それぞれの家族への報告でした。幸い、夫の母は里親の制度を知っていてスムーズに理解をしてくれました。でも、私の母は「わざわざ他人の子供を育てて、そんな大変なことしなくてもいいのに」と何度も言われました。私はこれから産んで育てる自分の子供よりも、もう既に困っている子供の力になりたいという気持ちを何度も伝え最終的には認めてくれました。

申し込みをして研修を受けて認定されるのに半年近くかかり、とてももどかしい気持ちになったのを覚えています。しかし、その間に家族で話し合う時間が持て全員納得した形で始めることができたのでよかったなど今では思っています。

認定されてからすぐに児童相談所から一人の女の子の話をいただきましたが、その子とは縁がなくほかの御家庭に決まりました。まだ見ぬ子ながら喪失感がありましたがその2カ月後、新しくもうすぐ1歳になる女の子のお話がありました。どんな子でも愛情を求めたいと思いつつも子供についての紹介は簡単な情報しかなく、出会ってから本当にその子のことを愛せるのか不安な気持ちはありました。

ただ、2017年1月に初めて乳児院へどきどきしながら私たち夫婦と児童相談所の方々と一緒に会いに行ったのですが、部屋で遊んでいる彼女を見た瞬間そんな不安は吹き飛んで「うわあ、かわいいな。」それしか思わなかったです。

当時は私はフルタイムで働いていたので、自営業の夫が主に乳児院に交流しに行っていました。泣かずに最初からにこにこして担当の先生と夫と子供の3人で遊べたようです。次第に担当の先生がちょっとずつ離れていき、私たちと過ごす時間をふやして日に日に子供との仲が深まっていきました。子供の中で私たちの存在が大きくなってきたころ、時期としては3カ月ぐらいたったころ、自宅交流が始まりました。

特に気をつけたのは、子供の生活リズムです。乳児院での生活スケジュールどおりに生活することにより少しでも子供のストレスを軽減するように努めました。すると子供

も、最初は夜泣きをしていましたがすぐ落ちついて寝てくれるようになりました。

一番不安だったのは、委託してすぐに39度の高熱が出たことです。こんな小さな子がぐったりして死んでしまうのではないかなとかなり焦りました。小児科に連れていくという経験がなかったので、どこに行けばいいのか一応調べてはいたのですが、不安で急いで連れていきました。近所の病院で看護師さんに質問をしまくったのですが、「今までどうしていたの。そんなことよくあることでしょ」と言われてしまいました。私も「この子は里子で、この前来たばかりだから全然わからないのです。だから教えてください」と食ってかかってしまいました。与えられた薬も効果が見られなくて熱も下がらなくてたまらなくなって乳児院の先生に電話して聞きました。そうしたら「今までは、座薬を使えばすぐ熱は下がっていたよ」と言われ急いで病院に戻って座薬をもらい使うとその次の日には熱は下がりよく寝ていて、安心しました。

このこと以外には、とても元気にすくすくと成長していってくれています。最近もお弁当を持って公園で過ごして、1日中遊ぶということもしょっちゅうです。最初はイヤイヤ期で道の真ん中でひっくり返って泣きじゃくり大変な思いをしましたが、最近は会話ができ、コミュニケーションをとれるようになったからか、すごく落ちついています。ママ友付き合いもありますが今のところ本人のために里子であるということは周りには伏せて生活をしています。万が一にも真実告知を、周りから耳にするのではなく、私たち家族から徐々に子供に伝えていけたらいいなと考えているからです。

来年は幼稚園に通うことになりますが、すぐに実親さんに引き取られることになるかもしれない子供のため、実親さんの希望も考慮していきたいなと考えると選択は難しいです。児童相談所では実親さんとなかなか連絡がとれないようで、現状がよくわからないような状態です。里親制度は、養子縁組ではなく一定期間養育するものなので、実家族さんの状況も把握して、子供のためにも、実家族さんにも優しい制度であることを望んでいます。

私たちの生活も180度変化して行って、子供ができて自由を失った反面、私たち自身も大きく成長させてもらっていると感じています。子供がぐずって激しく泣き、それにつられて犬も鳴いて隣の家からは「窓を閉めて生活をしてください」と言われました。本当にこの子は何がそんなに気に入らなくて泣くのか。いらいらしてわけがわからなくなって一人で泣いたこともあります。でも、その数分後ににっこりして「ママ、ハッピー？」と聞かれたりするとすごく幸せを感じます。子供によって自分の感情がこんなに大きく動くのか。子供がいなかったら全く感じていなかった感情です。

今の私たちの悩みは実子がいる方と変わらず、平和に過ごしておりますが子供が成長し、学校に行き始めて、人間関係も複雑になると里子であることにもしかしたら悩み苦しむことも出てくるかもしれません。でも、それらの悩みを家族で話し合っていて体当たりでぶつかっていけるような家族になれるよう日々の生活を私たちらしく、楽しく過ごせていけたらいいなというふうに感じています。

18 短い期間でも、ここはキミの居場所だよ ～ドアプレートにかけた願い～

【里父】

私は、日本人の両親のもとに、カリフォルニア、サンフランシスコで生まれ育ち、35年間カリフォルニアに住んでいました。約6年前に日本人女性と結婚し、5年前から日本に住んでいます。養育家庭には、2年前の10月に認定されました。

アメリカの11月というと、サンクスギビング（感謝祭）という祝日があり、日本で例えるとお正月と同じように家族が全員集まり、みんなでご飯を食べます。そのご飯も決まっています。大抵どの家庭でも七面鳥、グレービーソース、マッシュポテト、パンと野菜で作ったスタッフィングなどを食べます。その夜食べきれなかったものをさらに2、3日ぐらいかけて食べるのが普通です。

ところで、皆さんは午後3時に「今日から一時保護された7歳の男の子を受けてもらえませんか」という依頼を受け、その日の午後8時に、自分が今どういう状況かわからない子どもに、あなたなら何を食べさせますか？初めて児童相談所から、我が家に7歳の男の子の一時保護について依頼があったのは、うちでサンクスギビングパーティーをした翌日でした。初めて来る変な家、初めて会う変なロン毛おじさん、現在自分がどういう状況がよくわからない、不安で泣きそうになっているその子の、我が家での最初の一食目は、アメリカ人の子どもだったら誰でも喜ぶ七面鳥のディナーでした。その子は食べてくれましたが、おそらく食事で不安は深まったと反省しており、それから我が家にきた約8人の子どもたちの初日のご飯は、カレーライスにしています。

我が家に来る中学生以上の子は初日のカレーライス以外にも決まっていることがあります。2日目には、手芸の材料を買えるお店に子どもと一緒にいき子どもたちが個室のドアに掛けられるドアプレートの材料を選ばせ買います。家に帰ってから自分が好きなデザインで作ります。「他の子どもたちはこうしたよ」「こうしたほうがいいんじゃない？」などの意見はあまりしないで、子どもたちが自分で思い描くものをサポートし、手伝います。終わり次第、部屋のドアに掛けたとえ数日から数か月だけの短い期間だとしてもその部屋は彼らが居るべき場所だと少しでも思えるのが我々の願いです。

この2年間、主に一時保護が必要な子どもを引き受けてきました。男の子、女の子、人見知りの子、社交的な子、幼稚園生、小学生、中学生、高校生などです。妻は子育て経験が今までなかったので子どもが来るたびに全力で頑張り空いている時間を全部埋め尽くそうとします。110%で頑張り、子どもが帰るころにはへとへとになっています。なので期間がある一時保護がちょうどいいと思っています。また、前回来た子どもと何が上手くいったのか次に来る子どもに対してどうやったら子育てをよりよく出来るのかを話せるのがメリットだと思います。

3人目の子どもは母の入院中の2か月間一時保護された5歳の男の子でした。これまでうちに来た子どもの中でもずば抜けて社交的で、彼が我が家に来た時の初めての言葉が「おじ

さん、何で髪長いの？」でした。彼ぐらいの年の子が来るとだいたい初日は泣いていますが彼は弱音を言わず泣きませんでした。彼の家の状況が実際にどうかはわかりませんがあまり外で遊んだことがなかったと思います。足腰を鍛えるため毎日散歩に連れて行きました。散歩の途中で見かけた神社、お寺、お地蔵さんで彼は必ず手を合わせ、「お母さんが元気になりますように」と祈っていました。2か月間で祈った数は、軽く100回を超えたと思います。

去年の10月には中学校3年生の女の子を一時保護で預かりました。彼女は小学校3年生の頃から不登校が始まり中学校もあまり行っていなかったようです。うちにいる間はなるべく学校に行こうと約束し妻が起こしに行った後、二度寝をしたら私が起こしに行ってようやく起きるのが毎朝のパターンでした。2時間ぐらい遅れて登校することもありましたが我が家にいた1か月、毎日欠かさず学校に行きました。彼女も人生で初めてのことだったと言っていました。

その後、彼女は別の養育家庭で生活するようになり新しい家庭でも頑張って高校に進学しスポーツ系の部活に入って楽しい高校生活を送っているそうです。

今年の9月には17歳の女の子をお預かりしました。その子は高校には進学せず、1人で東京に来て、アルバイトしながら生活をしていました。朝7時のバイト開始時刻に間に合うように朝5時半から歩いて通いバイトが終了後も歩いて帰宅していました。バイト先での1日1回の賄いがその日のたった1回の食事だった日も少なくなかったそうです。働いていただけのこともあり初めて会ってちゃんと自己紹介されたときに私は何気なく「大人だね」と言いました。考えてみたら彼女を守るべき大人が原因で彼女は今の状況になっていたのだから、次の日彼女がバイトから帰り次第「おじさん、昨日はあなたのことを大人だって言ったけれどそれは間違いだった。この家ではあなたは子ども。子どもはこの家では保護される。うちにいる間は子どもっぽくしていいからね」と謝りました。その後1週間ぐらいで自立援助ホームが見つかり彼女はそこへ引っ越しました。行く直前まで2人でトランプをして遊び大負けして悔しがっていた彼女は本当に子どもっぽかったです。大人の世界で働いてきただけあってちゃんとしたお別れの挨拶ができたのも彼女だけでした。

一時保護とはお見合い相手とその日のうちに結婚するみたいなことだと自分は思っているので我が家に来る子どもたちのだいたい上手くいっているのは児童相談所のスタッフが気をつけてマッチングしているおかげだと思っています。少し時間はかかりましたが、万一、我々の里親としてのスキル以上の子が来てうまくいかなかった場合でも話を聞いていただき私たちが無理をしなくていいように解決していただけると思うとこれからも長く色々な子どもを引き受けられると思っています。

今日は、発表を聞いていただきまして本当にありがとうございました。

19 里親としてのやりがいと喜び

【里母】

平成8年に養育家庭の登録をしてからだんだん家族が増え、今はファミリーホームとして6人の子供、高校を卒業して児童相談所からの措置解除後も我が家から仕事に行っている2人の元里子、2人の実子、私たち夫婦と夫の母で13人の大家族で暮らしています。

私たちは上の娘が2歳で、下の娘をまだ妊娠していた時、夫の提案で里親になりました。色々調べる中で養子縁組制度と養育家庭制度があることを知りましたが実子もいて籍を入れることにこだわりがなかったので養育家庭を選びました。

里親登録し下の娘を産んで数か月の頃、実子たちと変わらない年齢の子供を3人、親御さんの生活環境が整うまで約1か月預かりました。実子2人を含め幼児5人ですからとにかく忙しかったですがにぎやかに楽しく充実した日々を過ごすことができました。子供たちが帰る時、児童相談所の方が子供たちの「目が明るくなりましたね」と言ってくださりやりがいを感じました。それ以来お話があればどんな子供でもお受けするようになりました。

最初の頃は実親さんのもとに帰れるお子さんを期間限定でお受けすることが多かったのですが実子が小学校や幼稚園に行くようになり長期の委託も増え始めました。うちで一番長くいる子は現在19歳です。実親さんの養育が難しいので自立するまでみてほしいという紹介を受け一時保護所（短期間子どもを保護する東京都の施設）に会いに行きました。その時、彼は2歳10か月でしたが口からよだれがずっと滝のように出ていました。言葉がほとんど出でおらず喃語と「まんま」とか「ぶーぶ」とか1歳前後くらいの一語文が少し言えるかなという感じでした。でも目がきらきらして笑顔もしぐさもとてもかわいい子でぜひ我が家で受け入れたいとお返事しました。

この子を初めて家に連れ帰った日のことは忘れることができません。電車とバスを乗り継ぐ道々、手をつなぐのですが2歳の小さな手では手を全部握ることはできず私の指を2本ぐらい握っていました。ふと2歳とは思えないぐらい強い力でぎゅっと私の指を握り締めていることに気づきました。この子はこの手を離してしまったら自分はどこから来てどこに行くのかしゃべれないのだ、数回しか会ったことのないこの誰ともわからないおばさんに連れられてどんな気持ちなのだろうと考えると胸が締めつけられるようでした。そしてこの子のことを絶対に幸せにしたいと強く思いました。今もあの手の感触を忘れないようにしていますしこの時の気持ちは里親が私のライフワークになるきっかけだったように思います。

言葉があまり出ない子でしたが大家族の中でとにかく言葉のシャワーを浴び幼稚園を卒園する頃には少しずつお友達との会話ができるようになりました。先生の言うことはきけたので小学校は普通学級に行っていました。でも、やはり言葉は少なく勉強は苦手でした。平仮名を覚えるのも大変で九九はいまだに怪しいのですけれども持ち前のかわ

いい笑顔と素直な性格で小学校の普通学級で6年間を過ごしました。お友達も多い子でしたがいじめられるというようなつらいことも経験しました。

中学からはさすがに勉強についていくのが難しくなり特別支援学級に通いました。彼にとって特別支援学級は居心地がよく伸び伸びと楽しく学校生活を送っていたようです。

ただし、その頃はちょうど思春期で私とぶつかることが多くなっていました。ある日、問題があって私も学校に呼び出され私と先生で彼に一生懸命話をしました。彼はどうして自分の自由にしてはいけないのかと納得せず、しまいには私のほうが今まであなたをどんな気持ちで育てたと思っているのかと泣いてしまうほどでした。でも彼の反抗は続きその後1カ月以上口をきいてくれませんでした。「御飯だよ」とか、「お帰り」と言葉をかけても全部無視をされるのです。小さいときからずっと一緒に暮らしていても気持ちって通じないものなのかな、血がつながらないということは何かかせになるものがあるのかなと寂しい気持ちにもなりました。

それから1カ月くらい過ぎたある日彼が小遣いで買ったアイスを私の前に差し出して「これ、あげる」と言うのです。「あなたのお小遣いでお母さんに買ってくれたの？いいの？」と聞くと「いいよ」と。不思議だったので「お母さんにお小遣いから何か買ってあげる宿題が出たの？」と聞いたら、「違うよ」と言うのです。「ありがとう、嬉しいけど何で」と聞くと「日ごろからの感謝の気持ちだよ」と言ったのです。

それまでずっと口もきいてもらえなかったのが彼のそういう気持ちを全くわかっていなくてとても驚きました。本当に嬉しくてそれからもう5年近くたちますけれども、里親として私の嬉しかった話の中の一番先に話す話になっています。

血がつながっていない事実はあるけれど気持ちがつながらないということはない。家族のきずなというのは少しずつ少しずつ育んでいくものなのだとその子から教えてもらいました。最初、この子を幸せにしてあげたいという思いでいっぱいでしたが逆に私のほうが幸せに思っているなと思っています。

我が家には彼のように小さいときから長期で来る子もいますし中には中高生になってから来る子もいます。実親さんのところに帰れる子もうちから自立していく子もいます。本当に一生懸命自分の居場所を我が家に求めてくる子たちが多いので応援してあげたいという気持ちでいっぱいになります。そしてどの子にもいつでもうちには帰ってきていいんだよ、特に困ったことがあったらすぐに相談してと話しています。

最近、子供を預けている実親さんが自分で自分を責めるような気持ちでいることを知る機会がありました。子供を手元で育てられないということは本当につらいことだと思います。私は、実親さんが子供を預けることにそんな肩身の狭い思いをしないでもみんな育てればいいのだよということをもっと知ってもらいたいなと思っています。これからも自分が住んでいる地域の中で、地域の子供たちをみんな育てられるような、そんな環境にしていくために私たちができることをしていきたいです。

平成30年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童相談所	参加人数				
				養育家庭・ フレンドホーム	都区市町村 及び関係職員	民生児童委員 主任児童委員	一般・学生	合計
平成30年9月2日	シビックセンター4階 シルバーホール	文京区	児童相談センター	0	12	7	16	35
平成30年10月10日	青梅市役所 会議室	青梅市	立川児童相談所	5	10	0	10	25
平成30年10月17日	昭島市役所 6階会議室	昭島市	立川児童相談所	3	7	1	9	20
平成30年10月20日	サンパール荒川 大ホール	荒川区	北児童相談所	7	40	42	109	400
平成30年10月20日	小金井市民会館 萌え木ホール（小金井市商工会館3F）	小金井市	小平児童相談所	1	12	10	21	44
平成30年10月24日	保谷庁舎	西東京市	小平児童相談所	1	7	24	19	51
平成30年10月25日	三鷹市公会堂さんさん館	三鷹市	杉並児童相談所	4	22	0	10	36
平成30年10月25日	日野市役所 505会議室	日野市	八王子児童相談所	11	53	7	15	86
平成30年10月27日	みなと保健所 8階大会議室	港区	児童相談センター	25	3	6	10	44
平成30年10月27日	小平市中央公民館	小平市	小平児童相談所	3	4	1	7	15
平成30年10月27日	瑞穂町子ども家庭支援センター ひばり2階地域活動室	瑞穂町	立川児童相談所	2	8	7	5	22
平成30年10月28日	中央区教育センター 5階視聴覚室	中央区	児童相談センター	3	4	3	21	31
平成30年10月30日	奥多摩町子ども家庭支援センター きこりん2階	奥多摩町	立川児童相談所	4	14	0	12	30
平成30年11月1日	生涯学習センター クリエイトホール	八王子市	八王子児童相談所	14	42	0	94	150
平成30年11月3日	武蔵野プレイス	武蔵野市	杉並児童相談所	11	6	5	35	57
平成30年11月8日	調布市文化会館「たづくり」	調布市	多摩児童相談所	1	30	0	8	39
平成30年11月8日	東大和市市民会館 ハミングホール	東大和市	小平児童相談所	4	19	12	22	57
平成30年11月10日	目黒区役所	目黒区	品川児童相談所	1	6	4	41	52
平成30年11月10日	帝京平成大学 中野キャンパス	中野区	杉並児童相談所	6	2	0	42	50
平成30年11月10日	赤羽文化センター 第1視聴覚室	北区	北児童相談所	0	15	6	26	51
平成30年11月10日	Coconeri（ココネリ）3階 第一研修室	練馬区	児童相談センター	7	7	12	25	51
平成30年11月10日	立川市役所 101会議室	立川市	立川児童相談所	2	10	1	18	31
平成30年11月10日	学校法人社会事業大学A401	清瀬市	小平児童相談所	5	5	2	14	26
平成30年11月10日	国分寺市立cocobunjiプラザ リオンホール	国分寺市	小平児童相談所	1	3	4	50	58
平成30年11月11日	江東区文化センター	江東区	江東児童相談所	0	0	1	21	22
平成30年11月11日	生涯学習センター	町田市	八王子児童相談所	12	15	11	63	101
平成30年11月12日	あきる野市役所 5階 503・504・505会議室	あきる野市	立川児童相談所	4	13	16	19	52
平成30年11月14日	世田谷区北沢タウンホール	世田谷区	世田谷児童相談所					220
平成30年11月15日	台東区役所 10F会議室	台東区	児童相談センター	5	15	13	19	52
平成30年11月15日	中央文化センター ひばりホール	府中市	多摩児童相談所	2	4	0	49	55
平成30年11月16日	健康プラザかつしか 小ホール	葛飾区	足立児童相談所	3	15	0	7	25
平成30年11月16日	東村山市市民ステーションサンパルネコンベンションホール	東村山市	小平児童相談所	1	2	0	31	34
平成30年11月17日	荏原第5区民集会所 第1集会室	品川区	品川児童相談所	1	7	2	15	25
平成30年11月17日	杉並区ウエルファーム杉並	杉並区	杉並児童相談所	5	4		25	34
平成30年11月17日	国立市役所1階 東臨時事務室	国立市	立川児童相談所	2	13	0	29	44
平成30年11月17日	市民総合センター	武蔵村山市	小平児童相談所	2	2	8	3	15
平成30年11月18日	墨田区役所13階131会議室	墨田区	江東児童相談所	0	6	3	31	40
平成30年11月18日	羽村市役所4階 大会議室	羽村市	立川児童相談所	1	12	10	37	60
平成30年11月20日	豊島区役所1階センタースクエア	豊島区	児童相談センター	4	11	12	77	104
平成30年11月21日	多摩市子育て総合センター	多摩市	多摩児童相談所	2	22	0	17	41
平成30年11月22日	区立中央図書館 集会室	渋谷区	児童相談センター	0	0	0	11	11
平成30年11月27日	子ども支援センターげんき5階 研修室	足立区	足立児童相談所	4	31	19	8	62
平成30年11月28日	戸塚地域センター	新宿区	児童相談センター	1	3	24	5	33
平成30年11月29日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北児童相談所	2	14	2	43	61
平成30年11月29日	東久留米市役所 市民プラザ	東久留米市	小平児童相談所	6	9	19	17	51
平成30年11月29日	稲城市地域振興プラザ	稲城市	多摩児童相談所	1	30	1	25	57
平成30年11月29日	日の出町役場 3階 第1・2会議室	日の出町	立川児童相談所	4	12	1	8	25
平成30年11月30日	神田さくら館 7階研修室	千代田区	児童相談センター	3	3	9	22	37
平成30年12月1日	狛江市防災センター	狛江市	世田谷児童相談所	0	7	8	10	25
平成30年12月1日	さくら会館 3階 ホール	福生市	立川児童相談所	2	9	2	19	32
平成30年12月8日	大田区役所 2F 201・202・203会議室	大田区	品川児童相談所	3	4	35	58	100
平成30年12月21日	江戸川区総合文化センター	江戸川区	江東児童相談所	0	49	55	70	174
合 計				191	653	405	1378	3053

平成30年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	9/2	10/10	10/17	10/20	10/20	10/24	10/25	10/25	10/27	10/27	10/27	10/28	10/30	11/1
	文京区	青梅市	昭島市	荒川区	小金井市	西東京市	三鷹市	日野市	港区	小平市	瑞穂町	中央区	奥多摩町	八王子市
①性別														
男性	9	0	0	68	9	7	7	22	12	3	2	11	4	19
女性	28	7	9	123	20	31	21	32	29	10	9	20	11	89
不明・無回答	0	0	0	5	0	13	0	0	0	0	1	0	0	1
②年齢														
～20代	2	0	1	24	5	2	3	9	12	2	2	7	2	34
30代	4	2	2	25	4	6	3	6	29	1	1	5	4	25
40代	7	2	4	43	4	2	8	12	0	7	0	9	2	20
50代	16	1	2	38	6	7	11	15	2	3	3	9	4	21
60代	6	2	0	37	7	16	1	5	6	0	4	1	1	5
70代～	2	0	0	24	3	5	1	4	12	0	2	0	2	0
不明・無回答	0	0	0	4	0	13	1	3	7	0	0	0	0	4
③所属														
一般	13	1	1	86	8	6	5	7	6	5	1	14	3	23
民生児童委員	5	0	0	42	7	19	0	4	6	1	7	1	0	0
主任児童委員	2	0	1	0	1	3	0	3	0	0	0	2	0	0
養育家庭	0	2	1	7	0	0	3	5	16	2	1	3	2	8
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0
都職員	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0
区市町村職員	12	0	1	39	3	1	9	21	3	0	0	2	3	29
施設・関係団体職員	0	3	3	3	7	6	9	11	2	2	0	1	4	8
学生	1	0	0	11	3	0	0	1	2	3	1	5	0	32
その他	3	1	0	3	0	3	1	1	2	0	1	2	2	3
不明・無回答	0	0	1	6	0	13	0	0	0	0	0	0	0	6
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)														
はい	33	7	9	152	26	35	26	48	4	13	12	31	13	82
いいえ	4	0	0	42	1	3	2	6	0	0	0	0	2	23
不明・無回答		0	0	2	2	13	0	0	0	0	0	0	0	4
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)														
区報・市報・ホームページ	19	0	3	61	7	4	8	12	34	6	0	5	4	17
ポスター	7	1	2	41	3	2	5	9	6	1	2	3	1	14
児相・子ども家庭支援センター	9	0	3	36	9	6	9	13	0	4	3	4	1	17
児童福祉施設	0	0	1	13	9	4	3	9	9	2	0	4	4	12
インターネット	7	2	4	23	6	14	3	6	3	3	7	12	5	16
テレビ番組	5	5	3	38	5	15	4	4	8	2	4	4	4	18
テレビCM	3	0	0	2	0	1	0	3	3	0	0	0	0	2
ラジオ	1	2	5	1	0	13	0	0	11	0	5	0	4	0
新聞・雑誌	3	1	0	18	6	3	0	5	5	1	1	1	1	7
知人・友人	4	0	0	19	3	0	5	9	1	1	0	5	0	12
図書	2	0	1	8	1	0	1	3	10	0	0	1	0	1
公開講座	1	0	1	7	6	3	3	9	7	4	1	3	1	13
その他	2	0	2	18	2	5	4	3	3	0	2	7	2	10
不明・無回答	0	1	0	22	1	13	3	5		0	0	0	2	26
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)														
区報・市報	19	0	2	61	5	9	4	18	5	2	5	2	4	26
都報	2	0	0	8	2	1	1	4	6	2	1	4	0	1
ポスター	8	0	2	47	2	3	4	1	0	0	1	2	2	3
体験発表会チラシ	12	4	4	30	13	15	14	17	9	2	6	12	10	21
インターネット・HP	4	0	1	18	4	3	1	1	4	3	0	6	0	3
知人に勧められて	6	0	1	40	2	2	1	4	1	1	0	2	1	3
過去に参加	5	1	3	5	2	10	3	10	8	1	4	1	3	5
行政機関への問合せ	0	0	0	6	1	1	2	0	5	0	0	0	0	1
その他	3	2	1	25	4	10	7	12	6	4	2	7	2	47
不明・無回答		0	0	5	2	15	1	1	4	0	0	0	1	6
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)														
養育家庭制度に興味・関心があったから	26	4	4	103	19	25	14	22	1	8	4	23	4	40
子育てに関わる話が聞けると思ったから	10	0	1	54	5	1	3	17	7	0	2	2	1	20
仕事や学問などの参考にするため	8	3	2	59	4	12	13	19	0	2	7	8	2	60
養育家庭になりたいと思っていたから	3	5	5	11	15	16	2	4	25	4	5	6	9	8
その他	3	1	2	32	2	3	3	6	10	0	1	2	1	14
不明・無回答		0	0	6	1	14	1	1	8	0	1	0	3	5
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
とても良かった	25	5	9	134	19	14	21	28	9	10	8	19	13	73
良かった	12	2	0	45	8	16	6	24	2	3	4	11	1	30
普通	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1
あまり良くなかった	0	0	0	1	0	0	0	0	27	0	0	0	0	1
良くなかった	0	0	0	0	1	0	0	0	13	0	0	0	0	0
不明・無回答		0	0	15	1	19	1	1	0	0	0	0	1	4
その他感想数		4	6	78	9	20	14	20	22	9	2	13	11	43
アンケート回答		7	9	196	29	38	28	54	41	13	12	31	15	109
参加者総数		25	20	400	44	51	36	86	57	15	22		30	150
住所氏名の記述数		1	1	30	8	5	3	6	13	2	0	15	1	12

平成30年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/3	11/8	11/8	11/10	11/10	11/10	11/10	11/10	11/10	11/10	11/11	11/11	11/12	
	武蔵野市	調布市	東大和市	目黒区	中野区	北区	練馬区	立川市	清瀬市	国分寺市	江東区	町田市	あきる野市	
①性別 男性	14	10	11	8	10	8	9	4	4	9	2	10	12	
	31	20	25	28	25	25	41	12	17	38	20	44	22	
	0	0	36	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
②年齢 ~20代	20	4	7	13	5	14	4	2	5	9	8	15	7	
	6	8	3	4	6	1	4	4	0	11	2	6	4	
	10	7	3	9	13	12	12	2	7	11	7	7	5	
	14	10	9	4	8	3	20	6	6	9	3	14	4	
	7	0	9	3	1	1	7	2	2	6	1	9	6	
	3	1	4	3	2	0	3	0	1	0	0	3	10	
	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	
③所属 一般	20	8	4	12	20	14	20	5	8	21	14	14	5	
	3	1	7	1	0	0	5	1	2	1	0	7	12	
	2	0	3	2	0	0	7	0	0	4	1	2	2	
	7	1	0	2	4	0	7	2	3	0	0	8	1	
	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	1	3	0	0	3	0	1	0	2	0	0	1	
	1	6	6	2	0	3	3	1	0	0	0	1	1	
	5	8	4	2	1	1	4	5	4	11	0	5	8	
	4	2	4	13	5	11	2	0	1	5	7	15	2	
	3	3	5	1	3	0	3	1	3	2	0	0	2	
	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	2	
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)														
	41	29	27	32	34	31	46	13	21	40	20	50	35	
	4	1	8	4	1	4	5	0	0	6	2	4	1	
	0	0	1	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)														
	15	8	10	11	7	4	14	2	5	8	5	12	6	
	8	6	5	4	6	2	7	2	2	8	2	5	2	
	13	7	12	4	6	4	12	4	4	10	3	14	3	
	11	6	9	3	5	8	7	1	3	6	0	7	6	
	7	7	2	3	11	3	9	1	2	8	4	8	13	
	1	2	7	5	9	2	12	6	7	3	3	3	16	
	0	0	2	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	
	1	0	1	0	0	0	1	4	0	1	0	0	13	
	3	1	6	2	3	3	11	2	5	8	2	3	1	
	8	1	3	3	6	3	3	0	6	2	3	7	0	
	2	1	2	2	1	0	3	1	1	2	3	1	1	
	7	1	3	14	3	8	5	0	4	8	5	17	2	
3	4	4	3	4	7	14	5	5	11	5	7	4		
1	0	0	0	0	0	0	3	2	4	1	6	2		
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)														
	8	4	11	4	7	9	11	2	3	7	4	9	5	
	3	0	1	1	0	3	4	2	2	1	2	1	0	
	5	3	1	1	2	1	0	1	1	5	0	4	3	
	17	8	11	13	10	4	20	5	6	17	3	16	19	
	7	5	1	4	4	10	1	1	7	6	4	4	0	
	5	2	1	3	4	7	3	2	4	6	2	14	1	
	8	3	8	4	1	1	3	4	0	2	0	9	12	
	0	2	1	2	0	0	2	0	0	0	0	2	1	
	11	7	11	12	10	5	9	3	5	11	4	11	8	
	1	0	0	1	0	0	0	1	2	1	1	2	1	
	5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)													
		34	14	17	15	25	20	31	4	11	26	14	26	18
9		12	2	5	1	4	22	1	2	6	3	17	4	
11		13	6	20	9	14	15	2	5	7	9	25	10	
4		2	17	4	3	6	6	9	9	15	4	2	18	
1		2	3	2	8	2	5	1	1	1	1	5	4	
2	0	0	0	1	0	0	3	1	3	1	2	4		
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
	32	15	22	23	25	23	31	11	14	34	10	38	24	
	10	8	9	12	8	9	14	1	5	10	8	16	9	
	1	0	3	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	
	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	6	2	0	1	1	0	3	1	3	1	0	2		
その他感想数	24	17	18	16	19	16	21	10	15	21	8		19	
アンケート回答	45	30	36	36	35	33	51	16	21	47	22		36	
参加者総数	57	39	57	52	50	51	75	31	26	58	50		52	
住所氏名の記述数	14	7	5	4	15	13	0	1	6	4	7		6	

平成30年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/14	11/15	11/15	11/16	11/16	11/17	11/17	11/17	11/17	11/18	11/18	11/20	11/21	11/22
	世田谷区	府中市	台東区	葛飾区	東村山市	品川区	杉並区	国立市	武蔵村山市	墨田区	羽村市	豊島区	多摩市	渋谷区
①性別 男性	24	4	7	2	1	18	6	6	0	13	11	18	3	4
女性	82	34	50	5	18	5	19	16	10	26	28	43	18	7
不明・無回答	1	0	4		15	0	0	1	0	1	0	0	0	0
②年齢 ~20代	31	3	4		2	6	6	7	2	8	5	15	8	5
30代	16	6	8	4	2	4	0	4	0	5	8	10	4	4
40代	23	11	7		8	9	6	6	1	6	11	8	3	1
50代	25	5	17	1	5	3	9	5	1	12	5	7	5	1
60代	13	8	14	2	1	0	3	0	6	9	5	11	1	0
70代~	0	5	11		1	1	1	0	0	0	5	8	0	0
不明・無回答	3	0	0		0	0	0	1	0	0	0	2	0	0
③所属 一般	23	19	12	2	10	5	14	9	1	18	14	14	8	8
民生児童委員	2	3	13	1	0	2	0	0	6	0	9	10	0	0
主任児童委員	8	0	0		0	0	0	0	0	3	0	2	0	0
養育家庭	0	0	5		0	1	3	1	0	0	0	3	0	0
フレンドホーム	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
都職員	2	0	2		1	1	1	1	0	0	2	2	1	0
区市町村職員	25	5	4	1	0	2	0	0	0	4	0	4	2	0
施設・関係団体職員	10	6	9	1	1	4	2	6	0	2	2	5	5	0
学生	25	0	0		1	6	5	3	2	4	2	9	4	2
その他	7	2	5	2	6	1	0	2	0	6	10	2	0	1
不明・無回答	1	3	2	1	0	1	0	1	1	3	0	52	1	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)														
はい	96	28	55	7	17	20	22	21	9	33	31	49	19	10
いいえ	11	8	6		2	3	3	0	0	6	7	7	2	1
不明・無回答	1	2	0		0	0	0	2	1	1	1	0	0	0
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)														
区報・市報・ホームページ	23	7	18	3	3	7	3	3	1	8	6	16	0	1
ポスター	16	2	11	2	3	3	3	3	1	4	2	10	2	0
児相・子ども家庭支援センター	28	8	14	2	5	9	4	2	0	7	6	6	4	0
児童福祉施設	12	6	3	2	6	7	4	3	4	1	6	10	4	1
インターネット	18	3	5	1	3	5	6	2	0	4	9	5	4	1
テレビ番組	12	8	13	1	3	1	4	5	1	5	6	3	5	3
テレビCM	1	2	0		0	0	1	0	0	0	3	0	0	0
ラジオ	1	0	0		0	0	0	4	0	1	10	0	0	0
新聞・雑誌	9	5	0	1	6	2	3	4	1	3	3	3	1	1
知人・友人	11	2	4		2	0	1	0	4	7	0	3	3	1
図書	9	3	0		0	0	2	0	0	1	0	1	0	0
公開講座	42	3	7		2	6	5	6	2	9	4	4	3	5
その他	12	2	10	1	4	0	2	1	2	8	6	10	4	2
不明・無回答	9	8	0	1	0	0	0	1	0	8	6	0	0	0
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)														
区報・市報	18	17	15	4	4	3	2	0	2	3	6	10	2	0
都報	2	0	2		0	0	2	1	1	0	3	4	0	0
ポスター	11	6	0	1	0	1	3	1	1	2	1	1	0	1
体験発表会チラシ	29	9	18	4	11	10	10	13	4	11	14	11	10	4
インターネット・HP	9	3	2		2	2	3	2	0	3	2	6	2	3
知人に勧められて	22	5	4	2	1	1	3	3	3	19	2	9	1	2
過去に参加	4	1	9	1	2	2	4	1	1	4	9	12	1	3
行政機関への問合せ	2	0	0		0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	29	5	20	1	4	8	7	6	4	8	8	14	9	2
不明・無回答		1	0		0	1	0	1	0	1	1	0	0	0
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)														
養育家庭制度に興味・関心があったから	58	11	25	3	9	13	14	11	7	26	19	31	7	6
子育てに関わる話が聞けると思ったから	15	15	32	2	2	3	3	4	0	9	1	8	5	3
仕事や学問などの参考にするため	54	15	21	4	8	11	7	2	1	17	17	18	12	9
養育家庭になりたいと思っていたから	9	2	1	1	9	1	5	10	3	3	12	5	2	2
その他	9	5	2	2	2	3	2	1	0	6	6	7	4	0
不明・無回答	0	2	0		0	1	0	1	0	0	2	0	0	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
とても良かった	65	18	46	6	17	14	13	16	8	28	28	34	15	9
良かった	34	11	5	1	1	7	11	6	1	7	7	15	6	2
普通	3	4	3		0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
あまり良くなかった	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	54		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	1	0	0		1	2	0	1	1	4	2	0	0	0
その他感想数	27	17	23		16	13	12	12	6	22	14	31	18	7
アンケート回答	106	38	61	7	19	23	25	23	10	40	39	61	21	11
参加者総数	220			25	34	25	34	44	15	60	60		41	
住所氏名の記述数	11	6	0	2	4	4	7	4	2	11	3	13	4	2

平成30年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/27	11/28	11/29	11/29	11/29	11/29	11/30	12/1	12/1	12/8	12/21	総計
	足立区	新宿区	板橋区	東久留米市	稲城市	日の出町	千代田区	狛江市	福生市	大田区	江戸川区	
①性別												
男性	9	1	8	8	6	1	7	6	7	13	30	497
女性	32	31	37	14	30	9	13	12	10	58	109	1,503
不明・無回答		1	2	0	2	1	0	0	0	3	4	94
②年齢												
～20代	3	4	3	1	1	0	5	0	4	17	7	365
30代	4	0	8	1	5	4	5	3	3	3	20	307
40代	1	1	18	1	21	3	2	4	3	13	45	437
50代	12	9	12	1	6	1	2	3	2	11	23	431
60代	14	8	5	8	4	1	4	5	4	19	32	322
70代～	6	9	1	10	1	1	2	2	1	10	15	175
不明・無回答	1	2	0	0	0	1	0	1	0	1	1	51
③所属												
一般	5	2	28	3	22	2	3	8	4	14	32	624
民生児童委員	17	20	1	18	1	1	2	6	1	29	45	319
主任児童委員		4	0	0	0	0	0	2	1	7	6	68
養育家庭	2	1	2	0	0	2	0	1	2	2	1	111
フレンドホーム		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	13
都職員		1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	39
区市町村職員	8	1	3	0	7	0	4	0	0	2	28	247
施設・関係団体職員	3	1	4	0	1	3	1	0	6	3	2	192
学生	2	2	1	0	0	0	2	1	1	15	2	219
その他	1	1	7	0	3	2	7	0	2	2	21	138
不明・無回答	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	106
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)								0				2
はい		33	35	17	31	7	15	17	15	67	117	1,681
いいえ	3	0	12	4	6	3	5	1	2	7	25	247
不明・無回答	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	40
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)								0				0
区報・市報・ホームページ	12	14	9	8	12	2	5	6	3	21	58	536
ポスター	6	1	7	2	8	0	3	2	2	5	39	293
児相・子ども家庭支援センター	13	16	10	6	11	1	8	5	3	24	35	437
児童福祉施設	6	5	3	3	6	2	3	0	2	9	15	265
インターネット	3	2	8	0	7	2	2	3	4	7	8	301
テレビ番組	4	7	6	3	8	5	4	2	7	12	19	342
テレビCM		1	0	0	1	0	1	0	0	1	3	36
ラジオ		1	0	0	0	4	0	0	5	0	1	90
新聞・雑誌	7	7	2	2	1	0	3	1	2	5	13	187
知人・友人	3	3	6	0	3	0	1	1	0	4	13	176
図書		3	1	0	2	0	1	0	0	2	3	76
公開講座	5	5	3	0	3	0	2	4	3	18	16	293
その他	16	4	6	7	3	1	2	2	2	12	19	271
不明・無回答	4	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	133
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)								0				0
区報・市報	13	4	7	6	15	3	5	5	3	9	39	441
都報	2	2	3	1	2	0	1	0	1	6	9	94
ポスター	1	1	1	1	2	1	3	4	1	3	4	153
体験発表会チラシ	8	4	15	9	6	5	9	3	12	20	37	604
インターネット・HP	2	0	6	1	10	0	1	1	2	4	6	171
知人に勧められて	3	1	7	1	2	0	4	2	1	4	5	222
過去に参加		13	2	4	3	4	2	5	7	10	20	240
行政機関への問合せ		2	0	0	0	0	0	2	0	4	7	45
その他	17	12	15	7	13	2	4	1	4	27	54	520
不明・無回答		0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	53
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)								0				0
養育家庭制度に興味・関心があったから	16	17	34	9	30	3	10	11	8	36	61	1,027
子育てに関わる話が聞けると思ったから	14	8	15	1	1	0	9	5	1	12	51	430
仕事や学問などの参考にするため	22	11	7	10	10	5	12	5	2	28	42	695
養育家庭になりたいと思っていたから	2	1	5	4	9	7	1	8	9	9	6	343
その他	7	3	2	2	1	1	0	2	3	12	25	223
不明・無回答		0	0	1	0	0	0	0	1	3	0	68
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。								0				0
とても良かった	26	20	33	14	16	8	17	10	13	50	71	1,284
良かった	12	11	10	7	16	1	0	7	2	20	64	547
普通		0	2	0	2	0	0	0	0	0	4	35
あまり良くなかった		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	32
良くなかった		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
不明・無回答	3	0	0	1	3	2	3	0	2	4	4	98
その他感想数		21	29	10	19	4	10	10	11	42	69	898
アンケート回答	41	33	47	22	38	11	20	18	17	74	143	1,938
参加者総数	62		61	51	57	25		25	32	100	174	2,679
住所氏名の記述数	11	8	12	5	16	0	5	8	2	20	22	361

養育家庭(ほっとファミリー)は、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく制度です。

【養育家庭(ほっとファミリー)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格は？

○平成30年10月1日以降の申請から以下の要件になります。

- ・ 都内在住の夫婦で健康な方。
配偶者がいない場合は、子供を適切に養育できると認められ、かつ起居を共にし、主たる養育者（申込者本人）の補助者として関与することができる、成人の親族等がいること（子供を適切に養育できると認められる特段の事情がある場合は除く。）。
・ 申込者の家庭及び住居の環境が、家族の構成に応じた適切な環境であること。

※その他詳しい要件はお問合せ先に御確認ください。

★ どのような子供を預かるの？

○ 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おおむね18歳までの子供です。

★ 預かる期間は？

- 養育期間は数年にわたる場合もあれば、数か月の場合もあります。
- 短期間のみ預かる養育家庭もあります。（おおむね1か月以上2か月未満）

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって関係機関と共に支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。
- ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話等で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問合せ先】

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



ほっとファミリー

ウェブ検索



こちらのホームページもご覧ください。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭体験発表集
令和元年9月発行

登録番号(31)152

発行 東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話03(5320)4135 ファクシミリ03(5388)1406
印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四丁目1番8号
電話03(5669)0261

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。



古紙/バレル配合率70%再生紙を使用しています

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。